



文化財愛護
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書16



Hōjō
鳥取県東伯郡北条町

Chōnai
町内遺跡発掘調査報告書
第4集

1995. 3

北条町教育委員会

鳥取県東伯郡北条町

町内遺跡発掘調査報告書
第4集

1995. 3

鳥取県東伯郡北条町教育委員会

序 文

わが国は今や豊かな国、長寿の国、科学及び情報の進んだ国として発展し、又世界に貢献する国としても進みつつございます。本町におきましては、真に豊かさを実感できる住み心地のよい町づくりに努力しているところであります。

こうした中で、各種開発事業も次々と計画されており、文化財保護の立場にある私達にとりましては、開発と保護の調整に苦慮しているところでございます。

本町は、総面積20.99km²の小さな町ですが、平成5年12月31日現在の北条町遺跡分布図によりますと、遺跡件数597件もの埋蔵文化財が存在していることになっておりますが、未踏査区域も多数ありますので、遺跡件数は、その倍になろうかと存じております。

今回の調査は、本町南部丘陵地帯をしめる蜘蛛ヶ家山一帯で行われる県営北条西地区・北条西2期地区農免農道工事並びに県営島地区一般農道工事に伴う試掘調査であり、工事予定地内の遺跡の範囲、性格等を確認するために行いました。

調査範囲も広範にわたり、困難な作業条件も加わりましたが、ひとまず本調査を終了することができました。

土地所有者並びに地元関係者の方々には本調査にあたりご理解とご協力を賜わりまして深く感謝いたしている次第でございます。

なお、昭和58年から昨年（平成6年）までの長年にわたり、北条町埋蔵文化財発掘調査に携わっていただいていた友定美保子さんが、享年38歳という若さで平成6年8月22日に亡くなられたわけでございますが、本報告書の発刊にあたりまして一言、謹んで深く哀惜の意を表し、故人の業績をたたえとともに、誠にありがとうございましたとご冥福をお祈り申し上げます。

最後に、文化財保護と開発事業という水と油のような関係で、たくさんの問題点があるかと存じますが、関係者各位に対しまして、重ねて良きご理解とご協力を賜りますよう伏して懇願申し上げます。

1995（平成7）年3月

鳥取県東伯郡北条町教育委員会

教育長 井上 浩

例 言

- 1 本報告書は、鳥取県東伯郡北条町教育委員会が、平成5年度と平成6年度に国と県から補助金を受けて実施した「町内遺跡発掘調査事業」の報告書である。
- 2 平成5年度は、鳥取県東伯郡北条町曲字割木谷と岡地区を中心に、平成5年10月から平成6年2月までトレンチ21本（約195m²）を設定し、現場を主に調査を行った。
平成6年度は、鳥取県東伯郡北条町曲字小山ケ谷、宮ノ前地区を中心に、平成6年9月から平成7年3月までトレンチ53本（約804m²）を設定し、現場と屋内作業を行い本報告書を作成した。
- 3 本報告書の執筆・編集は、調査に携わった方々のご意見を参考に樋口が担当した。
- 4 本報告書に収載した実測図等は、故友定美保子さんをはじめ作業員の中原由香里・福田香織が中心になって作成した。
- 5 図版に収めた写真は、故友定美保子さんと樋口が中心になって行なった。
- 6 遺物番号は、本分・挿図・図版にわたって同じ番号を使用した。
- 7 図中の方位は、すべて磁北としている。
- 8 出土遺物、実測図、写真は、北条町教育委員会が保管している。
- 9 本報告書作成にあたり、松本哲氏にご指導、ご教示いただいた。記して感謝します。

本文目次

第1章 調査に至る経過	1
第2章 位置と環境	3
第3章 調査の概要	7
1 平成5年度試掘調査	7
2 平成5年度出土遺物	11
3 平成6年度試掘調査	15
4 平成6年度出土遺物	32
第4章 まとめにかえて	38

挿図目次

挿図1 北条町内遺跡分布図	2
挿図2 蜘蛛ヶ家山周辺農道整備事業の各路線計画図	5
挿図3 割木谷地区トレンチ設置図 (T1～T12)	6
挿図4 岡地区トレンチ設置図 (T13～T21)	6
挿図5 割木谷地区トレンチ平・断面図 (T1～T10)	9
挿図6 割木谷地区・岡地区トレンチ平・断面図 (T11～T21)	10
挿図7 出土遺物その1	13
挿図8 出土遺物その2	14
挿図9 曲地区トレンチ設置図 (T1～T20)	19
挿図10 曲地区トレンチ設置図 (T21～T28)	20
挿図11 曲地区トレンチ設置図 (T29～T50)	21
挿図12 島地区トレンチ設置図 (T51～T53)	22
挿図13 曲地区トレンチ平・断面図 (T1～T5)	23
挿図14 曲地区トレンチ平・断面図 (T6～T12)	24
挿図15 曲地区トレンチ平・断面図 (T13～T17)	25
挿図16 曲地区トレンチ平・断面図 (T18～T23)	26
挿図17 曲地区トレンチ平・断面図 (T24～T28・T30)	27
挿図18 曲地区トレンチ平・断面図 (T29・T31～T37)	28
挿図19 曲地区トレンチ平・断面図 (T38～T43)	29
挿図20 曲地区・島地区トレンチ平・断面図 (T44～T51)	30
挿図21 島地区トレンチ平・断面図 (T52・T53)	31
挿図22 出土遺物その3	34

挿図23	出土遺物その4	35
挿図24	出土遺物その5	36
挿図25	出土遺物その6	37

図 版 目 次

図版1	割木谷地区・岡地区
図版2	曲地区T13・T14
図版3	曲地区T20・T22
図版4	岡地区出土遺物(1~15)・曲地区出土遺物(1~4)
図版5	曲地区出土遺物(5~12)
図版6	曲地区出土遺物(13~21)

第1章 調査に至る経過

本町の曲、島、北尾、米里地内におよぶ南部丘陵地帯は、鳥取県の特産として全国的に知られている二十世紀梨を中心とした果樹園が拓けているが、急傾斜地であり、谷も狭く細い道路しかないため、梨・柿等の栽培を遠慮してしまう農家が増えていることもあり、この地域全体の幹線道路の整備事業である県営北条西地区農免農道整備事業、県営北条西2期地区農免農道整備事業及び県営島地区一般農道整備事業（幹線1、2、3号・支線1、2、3号含む）が、地元関係者及び本町より強く要望されていることを工事主体者である鳥取県倉吉地方農林振興局地域整備課（平成5年度まで耕地課）から連絡を受け、本工事予定地内における埋蔵文化財の取扱いについて、工事との調整を図るべく協議を行なった結果、本工事予定地は、北条町曲地内の蜘蛛ヶ家山（標高171m）周辺であり「北条町内遺跡分布図」（挿図1）を見てわかるように、この地区は、未踏査地区が多いというものの範囲が広く、周知の遺跡として曲古墳群（228基）、曲第1（岡）遺跡等が存在していることも確認されている。

したがって、多年にわたる本工事を各年度ごとに文化財保護の上にならって工事施工予定時期等と発掘予定箇所や調査体制等を考慮しながら調整を図るようお互いに確認し合った。

そこで、北条町教育委員会は、鳥取県教育委員会とも協議を行い工事予定地内の遺跡の有無や分布範囲等を確認するため、次のように調査団を編成し、平成5年度には北条町曲字割木谷、岡地区を平成5年10月から平成6年2月に実施し、平成6年度には北条町曲字小山ヶ谷、宮ノ前地区等を平成6年9月から平成7年3月まで国や県の補助金を受けてトレンチによる町内遺跡発掘調査を実施することになった。

平成5年度・平成6年度調査団（調査体制）

調査主体 北条町教育委員会（担当：教育課社会教育係）

調査団長 井上 浩（北条町教育委員会教育長）

調査指導 長岡充展（鳥取県埋蔵文化財センター）

調査員 松本達之・宇田川 宏・西村勝義・日置条左エ門・前田明範（以上、北条町文化財保護委員）

友定美保子（北条町埋蔵文化財発掘調査調査員）

※宇田川彰二（北条町教育委員会教育課社会教育係主事）

樋口和夫（北条町教育委員会教育課社会教育係係長兼社会教育主事）

事務指導 松田 潔（鳥取県教育委員会文化課）

事務担当※宇田川彰二

（注）※は平成5年度担当者

樋口和夫



挿図1 北条町遺跡分布図

1. 曲古墳群	2. 土下古墳群	3. やすみ塚 (土下213号墳)
4. 茶臼山古墳群	5. 北尾古墳群	6. 島古墳群
7. 天王山遺跡	8. 北尾遺跡	9. 島遺跡
10. 曲226号墳	11. 船渡遺跡	12. 米里銅鐸出土地
13. 米里第1遺跡	14. 米里第2遺跡	15. 天神川河床遺跡
16. 宇ノ塚遺跡	17. 殿屋敷遺跡	18. 馬場遺跡
19. 用露鼻遺跡	20. 長畑遺跡	21. 茶臼山要害
22. 中浜遺跡	23. 下神1号墳	24. 曲第1遺跡(曲岡遺跡)

挿表 北条町内遺跡一覧表

第2章 位置と環境

本町は、鳥取県中央、海岸部に位置し、総面積は20.99km²である。東は県内3大河川の1つ天神川を境に羽合町と、南は倉吉市、西は大栄町と接する。

北部日本海側には、豊かな砂丘農業で知られる北条砂丘が1.3~1.7km²の幅でひろがり、南部には土下山という比高70m台の丘陵及び標高171mの蜘蛛ヶ家山を含む丘陵部で、いずれにも梨や柿の特産樹園地が拓けている。中央部が低平な沖積平野（北条平野）で、古くからの穀倉地帯である。このように3つに地域区分ができ、それぞれ地形の上でも土地利用の上でも明瞭な特色をもっている。（挿図1）

砂丘地は近世まで続いた飛砂がおさまって新砂丘で覆われているが、約1万年前の大山火山灰の堆積や古砂丘、それに古代遺物を包含するクロズナ層があり、その露頭もいくつか散見される。

中央水田地帯は、砂丘の堆積や天神川の沖積作用によって湾形になっていた古代の景観が想定され、海進、海退を物語る海食崖も見られる。島縄文遺跡はその一角にある。縄文土器片は江北、米里でも検出された。

南部丘陵地帯はなだらかな原野で、藩政時代までは周辺村々の入会採草地が入り組んでいた。そこには数多くの古墳が見られるが、明治以降桑園化が進み、その一部は破壊され、低平化していった。

以下3地域で検出された遺跡、遺物出土の概要である。

I. 砂丘部——北条砂丘西寄り下神三輪山一体に古墳などの砂丘遺跡が見られ、出土土器より弥生~古墳時代の生活舞台であったことがわかる。町の東端に位置する江北天神山近くの河川工事により、土師器、須恵器のほか土馬や鏡片など多彩な遺物が確認された。いずれも砂丘形成の據りどころとなった小丘近くである。

また、砂丘に接して中央部水田寄りに突出する茶白山（標高94m）一帯には、茶白山古墳群といわれる大小約60基が確認されている。東山麓部には殿屋敷遺跡があり、昭和61（1986）年発掘調査され、古墳時代から室町時代にわたる複合遺跡であることがわかった。ここからは、8~9世紀の大規模住居跡をはじめ建物群や土墨等が検出された。（北条町埋蔵文化財報告書6、7）茶白山頂上には、戦国期毛利方吉川元春軍の一要害となった山城跡が残っている。またこの山の北端往還筋近くに式内社伯耆四ノ宮と称される国坂神社が鎮座する。

II. 平野部——一帯に条理制遺構が見られ、古図や小字名に残されている。点在する集落を包むように美田がひろがり、主産業である水田産業を支えて来た。

昭和27年（1952）年の北条川付替工事の際発見された前記島縄文遺跡は島集落の東寄り突出部水田境に位置する。往古ここは北条瀉といってよい入江にあり、この突出

部は島状を呈していた。島の知名はこれに由来すると思われる。中世にはこの地の豪族山田氏の居館堤城^{つみじょう}のあったところ。長い間にわたる縄文人の居住が見られるのである。ここで採取された縄文土器は前期～後期に属するもので、島式として県内縄文遺跡の編年に役立っている。黒燿石の石鏃や石剣、石錘などの石器のほか、多くの動物骨格片も見つかった。次いで昭和58(1983)年、災害復旧に伴う緊急調査が行われ、この時は縄文土器、丸木舟のほか県下では珍しい貝類の包含層が検出された。貝層は上下2層に分かれ、上層には汽水性のヤマトシジミを中心とした縄文中期のもの、下層にはマガキ、ハマグリ、イソシジミなど縄文前期という特色がある。〔報告書〕2)

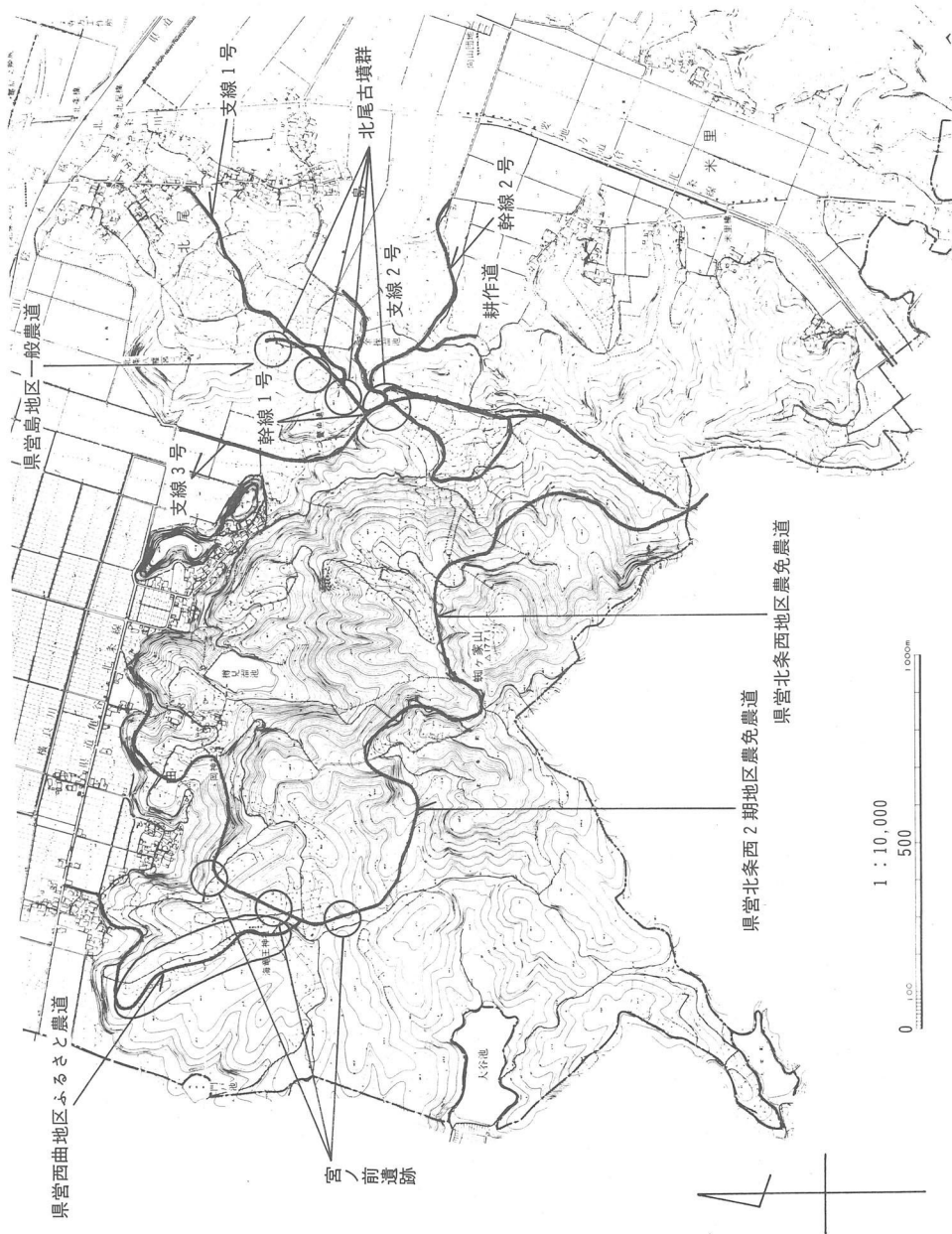
昭和27年の工事で島遺跡^{しも}の下300mの地点水田下より埋没していた古墳前期とみられる住居の柱根3本とほぼ完形の土師器が多数見つかった。天神川の沖積作用の及ぶ以前の生活基盤が水田下2～3mにあると推定される。

昭和44(1969)年に発見された米里舟渡遺跡^{みなと}は湾入部東寄りにあり、水田の暗準排水工事で見つかったひきりうす、大足など木器の発見がその発端であった。一帯水田下より倒壊流出したと見られる住居の一部や数種の木製品が見つっている。近くの畑地からは縄文土器片も検出された。米里銅鐸もこの奥蔵合屋^{そうごや}というところで流出した土砂の中で見つっている。

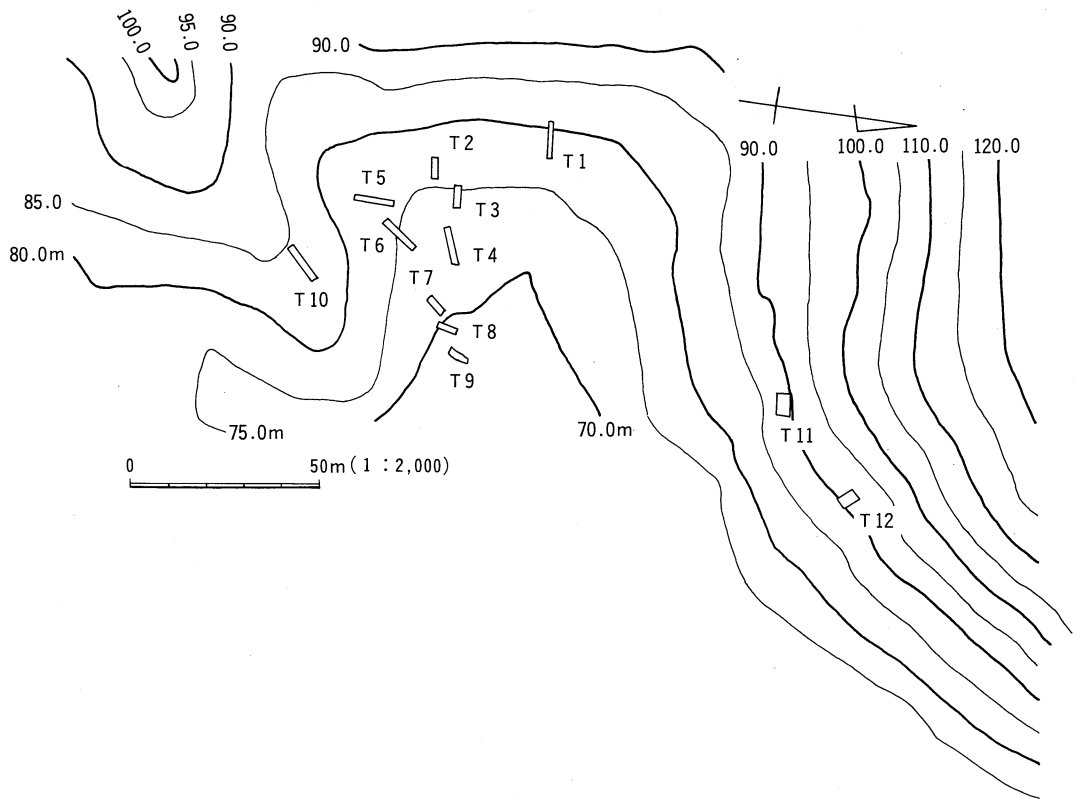
III. 丘陵部——土下山では、その数270基以上が確認されており、淀江町百塚原^{よどえちようひやくづかはら}などと並ぶ古墳の一大密集地帯である。多くは円墳だが、前方後円墳、方墳も含まれる。円墳のうち最大のもは大將塚古墳といわれ、直径40m、高さ12mもある。子鹿の埴輪(重美)や家型、人物埴輪で知られるやすみ塚(213号、前方後円)は見晴らしのよい小丘をなしており、隣接する210号墳(方墳)から平成4年の調査で人物3体のほか多くの埴輪片が見つかった。〔報告書〕15)ここより200m余り隔てたところに終末期の横穴石室が露見しており、魚の線刻も確認されている。

本調査箇所を含む西寄り蜘蛛ヶ家山の東・北麓を形づくる丘陵部も豎穴・横穴古墳の密集地帯(約230基)であり、その中心は字鎌谷^{かまだに}一帯^{きたお}である。北端北尾地内には北条八幡宮が鎮座。荘園時代には京都石清水八幡^{べつぐう}の別宮であった。荘園期から戦国の郷土を知る手がかりである。

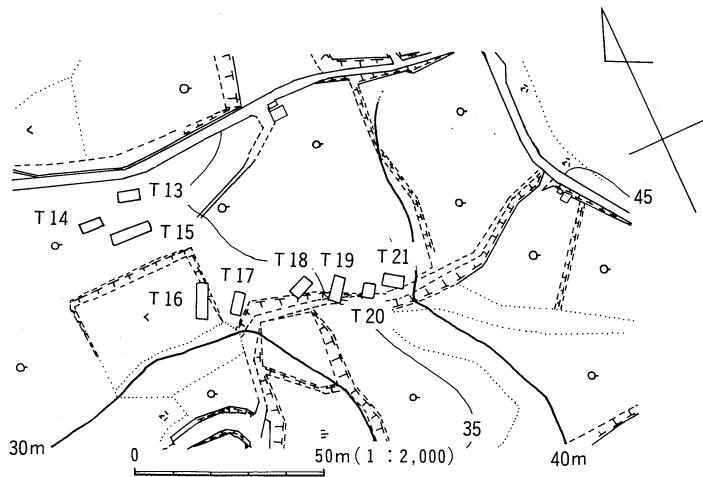
本町教育委員会は、昭和55年以降これら畑作地帯における農道や樹園地造成等に伴い、次々と試掘・発掘の調査を行い報告書にまとめて来た。しかし、古墳をはじめ調査を終えたところはごく僅かであり、町内の埋蔵文化財に関わる歴史的環境の解明は未だこれからである。



挿図2 蜘蛛ヶ山周辺農道整備事業の各路線計画図



挿図3 割木谷地区トレンチ設置図



挿図4 岡地区トレンチ設置図

第3章 調査の概要

1. 平成5年度試掘調査

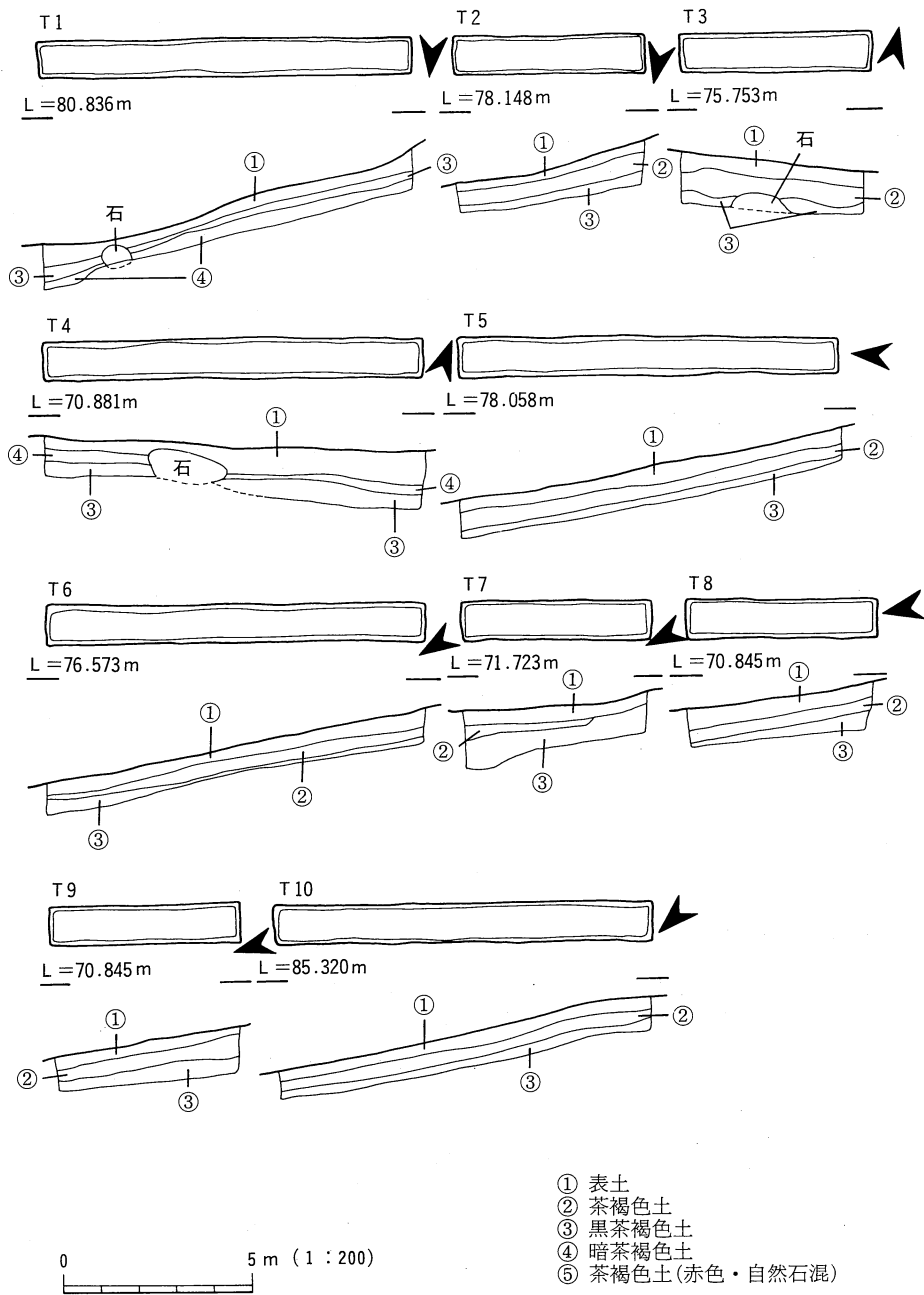
本調査は、本町の南部丘陵地帯の大部分をしめる北条町曲地内に存在する蜘蛛ヶ家山（標高171m）中腹裾部周辺の山林及び果樹園を南北に横断するような形で計画されていた県営北条西地区農免農道整備事業と県営北条西2期地区農免農道整備事業の工事予定地内に幅1～3m、長さ3～10mのトレンチ（T）をそれぞれの地形等に対応しながら通称「割木谷」地区にトレンチ（T1～12）12本（105㎡）と通称「岡」地区にトレンチ（T13～21）9本（90㎡）を設定し、トレンチ（T1～21）合計21本（195㎡）の範囲について遺跡の有無等の確認を行なった。（挿図3・4・P.6）

なお、各トレンチの発掘調査状況は、次のとおりで各トレンチ調査状況一覧表（P.7～P.8）及び各トレンチ実測図（挿図5～6・P.9～P.10）のとおりである。

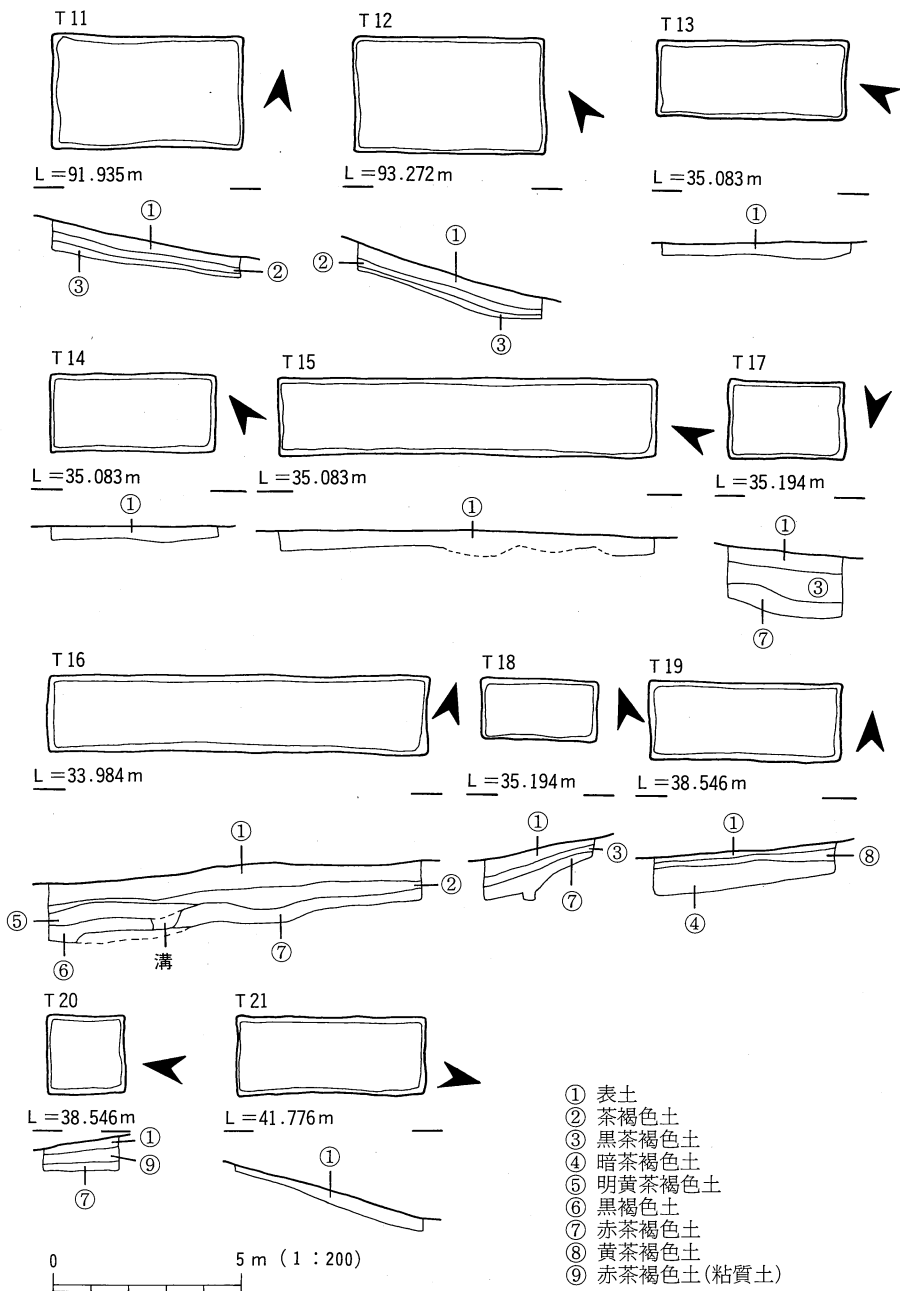
各トレンチ調査状況一覧表

トレンチ番号	挿図番号	図版番号	深さ (cm)	面積 (㎡)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構	その他
T1	5		90～140	5.0	①表土 ②茶褐色土 ③黒茶褐色土	なし	
T2	5		100～120	5.0	①表土 ②茶褐色土 ③黒茶褐色土	なし	
T3	5		150	5.0	①表土 ②茶褐色土 ③黒茶褐色土	なし	
T4	5		100	10.0	①表土 ④暗茶褐色土 ③黒茶褐色土	なし	
T5	5		80～100	10.0	①表土 ②茶褐色土 ③黒茶褐色土	なし	
T6	5		70～100	10.0	①表土 ②茶褐色（赤）土 ③黒茶褐色土	なし	
T7	5		80～120	5.0	①表土（腐糞土） ⑤茶褐色土（赤色・自然石混） ④黒茶褐色土	なし	
T8	5	1	130	5.0	①表土（腐糞土黒色混） ②茶褐色土 ③黒茶褐色土	なし	

トレンチ 番 号	挿図 番号	図版 番号	深 さ (cm)	面 積 (㎡)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構	その他
T 9	5		70~120	10.0	①表土 (赤色・自然石混) ③黒茶褐色土 ④暗茶褐色土	なし	
T10	5		70	10.0	①表土 ②茶褐色土 ③黒茶褐色土	なし	
T11	6		80	15.0	①表土 ②茶褐色土 ③黒茶褐色土	なし	
T12	6		80	15.0	①表土 ②茶褐色土 ③黒茶褐色土	なし	
T13	6		25	10.0	①耕作土	なし	
T14	6		30	9.4	①耕作土	なし	
T15	6		60	20.0	①耕作土	なし	
T16	6	1	100~150	20.0	①耕作土 ②茶褐色土 ⑤明黄茶褐色土 ⑥黒褐色土 ⑦赤茶褐色土	②・⑤層より甕口縁 4 点 ②・⑤層より須恵器甕口縁 1 点 ②・⑤層より備前焼 4 点 ②・⑤層より土師器片 319 個 ②・⑤層より須恵器片 43 個	
T17	6		140~160	6.0	①耕作土 ③黒茶褐色土 (粘質土) ⑦赤茶褐色土	③層より甕口縁 5 点 ③層より壺口縁 1 点 ③層より鼓型器台の脚部 1 点 ③層より備前焼 1 点 ③層より土師器片 654 個 ③層より須恵器片 82 個	
T18	6		50~100	4.5	①耕作土 ③黒茶褐色土 (粘質土) ⑦赤茶褐色土	③層より土師器片 3 個 ③層より須恵器片 1 個	
T19	6		100	6.0	①耕作土 ⑤黄茶褐色土 ④暗茶褐色土 (粘質土)	なし	
T20	6		60	10.0	①耕作土 ⑨赤茶褐色土 (粘質土) ⑧赤茶褐色土	なし	
T21	6		15~40	4.0	①耕作土	なし	



挿図5 割木谷地区トレンチ平・断面図 (T1~T10)

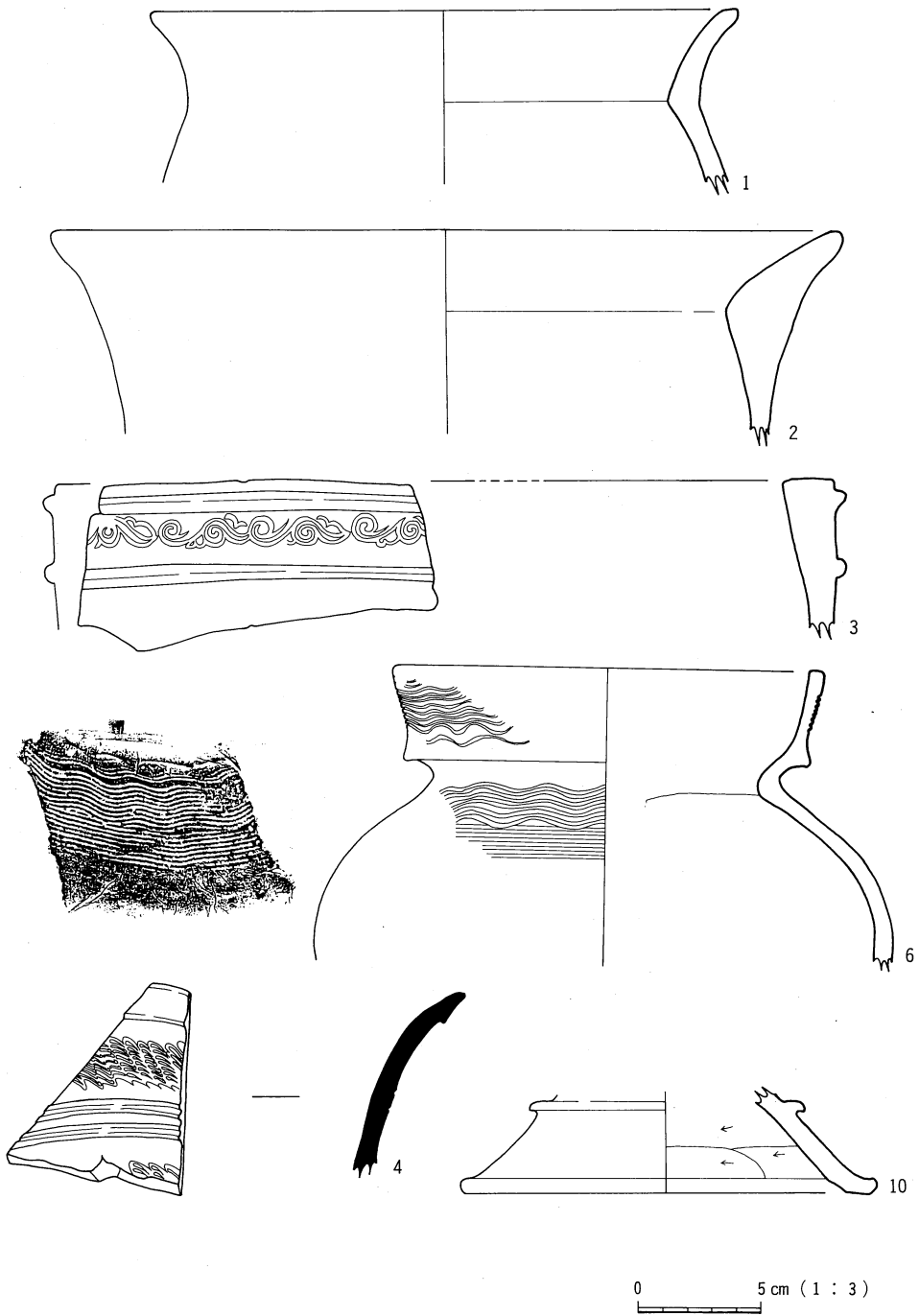


挿図6 割木谷地区・岡地区トレンチ平・断面図 (T11~T21)

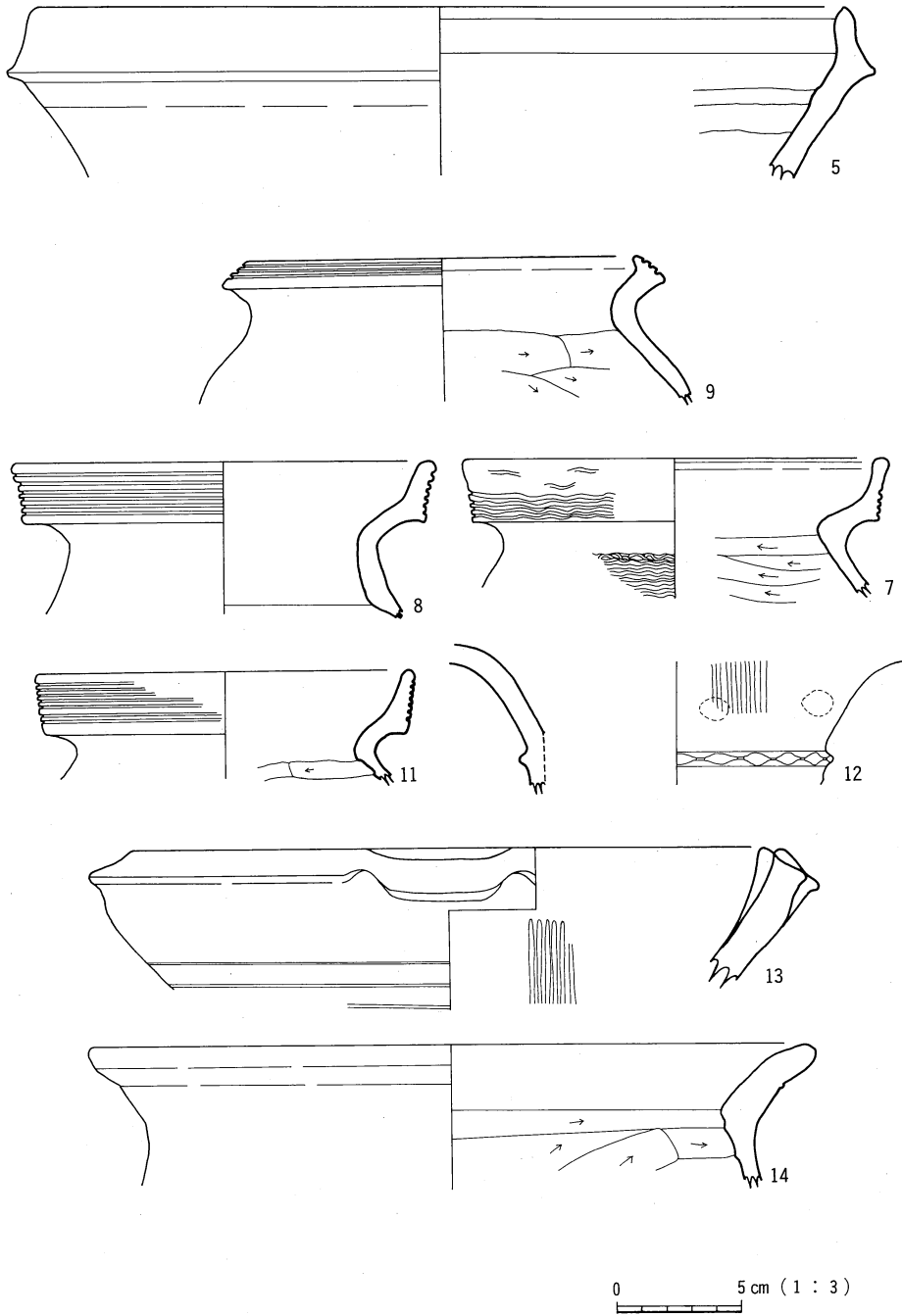
2. 平成5年度出土遺物

遺物番号	名称	出土場所	挿図	図版	法量	時代	形態	手法	焼成	色調	胎土
1 (N25)	甕	T16	7	4	口径23.4cm	6C	体部からゆるやかにくの字に屈曲し、丸味をもつ口縁端部につながる。	調整不明。	不良	黄褐色	不細粒 良含砂
2 (N26)	甕	T16	7	4	口径32.0cm	6C	体部から口縁部までほとんどくびれがなく、丸く上がり気味の口縁端部をもつ。頸部壁厚が厚い。	内面頸部以下、横方向のヘラケズリ。	やや不良	淡茶褐色	不砂粒 良含
3 (N27)	土師質の火車	T16	7	4	口径41.6cm	16C以降	2条の突帯の間に唐草模様を描かれている。口縁端部は厚くしっかりしている。		良	灰色	良
4 (N28)	須恵器甕	T16	7	4	不明	6C	やや外傾気味の口縁部で平坦面をもつ。胴部は不明。	外面ヨコナデの後、波状文等を施文。	良	青灰色	良
5 (N29)	備前焼スリバナ	T16	8	4	口径32.2cm	15C後半	口縁部は、約2.5cmと高く内傾している。	内外面ともヨコナデ。内面及び外面上部に光沢のある自然釉がかかり赤茶色となっている。	良	赤茶色 (外面下部) 赤茶褐色	やや不良 細砂含
6 (N31)	甕	T17	7	4	不明	弥生後期末	頸部はくの字に屈曲して、口縁部は外傾する複合口縁で、内側にやや肥厚する角ばった端部と、下向きにつまみだされた下端部をもつ。体部は丸く壁厚は薄い。	体部内面は横方向のヘラケズリ。口縁部外面にクシ描き波状文、肩部にクシ描き波状文とクシ描き沈線を施文する。その下はナデ。口縁部は上・下端をナデ消している。	やや不良	淡黄褐色	不砂粒 良含
7 (N32)	甕	T17	8	4	口径16.4cm	弥生後期後半	頸部はくの字に屈曲して、やや外傾気味の口縁部をもつ複合口縁。口縁端部はやや肥厚し、上端にやや平らな面をもつ。壁厚は普通。	体部内面は横方向のヘラケズリ。口縁部内面と頸部外面に横方向のナデ。口縁部と肩部外面に波状文を施し口縁部上端は施文したあとをナデ消している。	良	淡茶灰色	良 細砂含
8 (N33)	壺	T17	8	4	口径16.4cm	弥生後期中葉	頸部は大きくくの字に屈曲して伸び上がる。口縁部はゆるやかに外傾する複合口縁で、肥厚した丸い口縁端部と、やや下方につまみだされた下端部をもつ。壁厚はやや厚め。	体部内面はヘラケズリのあとが見られる。口縁部外面は6条の擬凹線文(クシ描きの後、ナデ)を施す。	不良	赤黄褐色	不1~2mm 良大の砂粒含
9 (N34)	甕	T17	8	4	口径15.2cm	弥生後期前半	頸部は大きくくの字に屈曲し、口縁部は短く、きつく内傾する複合口縁。口縁端部は上下に拡張され内傾する。	頸部以下内面は横方向のヘラケズリ。口縁部外面には3条の凹線文をめぐらす。肩部外面に斜めハケ目。	不良	赤黄褐色	不砂粒 良含
10 (N36)	鼓型器台(脚部)	T17	7	4	脚底部径16.0cm	古墳前期	屈曲部端は横に長くつまみだされている。脚部はゆるやかなカーブで下がり、脚端部で急に外反する。脚端部は外に丸く出ている。	外面はナデ。内面上部は横方向のケズリ。下部接地面付近はナデ。	やや不良	淡茶褐色	やや不良 砂粒含

遺物 番号	名称	出土 場所	挿 図	図 版	法 量	時 代	形 態	手 法	焼成	色 調	胎 土
11 (N37)	甕	T17	8	4	口径14.8cm	弥生後期 後半	頸部はくの字に屈曲し、口縁部はまっすぐ斜め上方へ伸びる複合口縁。口縁端部は丸味をおびている。壁厚は普通。口縁部・頸部外面にスス附着。	口縁部外面に7条のクシ描き沈線は施文する。頸部以下内面はケズリ。	やや不良	淡茶褐色	不良 1mm大の砂粒含
12 (N38)	壺 (頸部)	T17	8	4	頸部最大径 14.8cm	弥生中期 中葉 ～後葉	端部に向かって反りがきつくなる。端部付近に突帯を貼りつけている。	頸部にきざみ目をもつ突帯をめぐらす。肩部外面に指頭圧痕、縦方向ハケ目。内面は横方向のナデ。	不良	淡黄褐色	やや不良 細砂含
13 (N39)	備前焼 スリバ チ	T17	8	4	口径18.6cm	15C前半	注ぎ口をゆるくつまみだして作る。口縁部の立ち上がりはまだ低い。	内面に6条のオロシ目が認められる。内外面ともナデ。口縁部に釉がかり光沢をおびる。体部内外面はややにぶくなる。	良	赤茶褐色	良 1～2mm の砂礫含
14 (N40)	甕	T17	8	4	口径29.0cm	6 C	頸部はくの字状にくびれ、外反した口縁端部へつながる。口縁端部は丸くおさめる。口縁部に比べ、頸部以下の器厚は薄めである。	口縁部内外面ともナデ。頸部以下内面は左方向のヘラケズリ。	良	淡赤黄褐色	やや不良 砂粒含



挿図7 出土遺物その1



挿図8 出土遺物その2

3. 平成6年度試掘調査

本調査は、本町の南部丘陵地帯の大部分をしめる北条町曲地内に存在する蜘蛛ヶ家山（標高171m）中腹裾部周辺の山林及び果樹園を南北に横断するような形で計画されていた県営北条西2期地区農免農道整備事業と北条八幡宮の南側に計画された県営島地区一般農道整備事業（幹線2号）の工事予定地内に幅1～2m、長さ4～12mのトレンチ（T）をそれぞれの地形等状況に応じながら「曲」地内にトレンチ（T1～T50）50本（680㎡）と「島」地内にトレンチ（T51～T53）3本（124㎡）設定し、トレンチ（T1～T53）の合計53本（804㎡）の範囲について遺跡の有無等の確認を行った。（挿図9～12・P. 19～P. 22）

なお、各トレンチの発掘調査状況は、各トレンチ調査状況一覧表（P. 15～P. 18）及び各トレンチ実測図（挿図13～21・P. 23～P. 31）のとおりである。

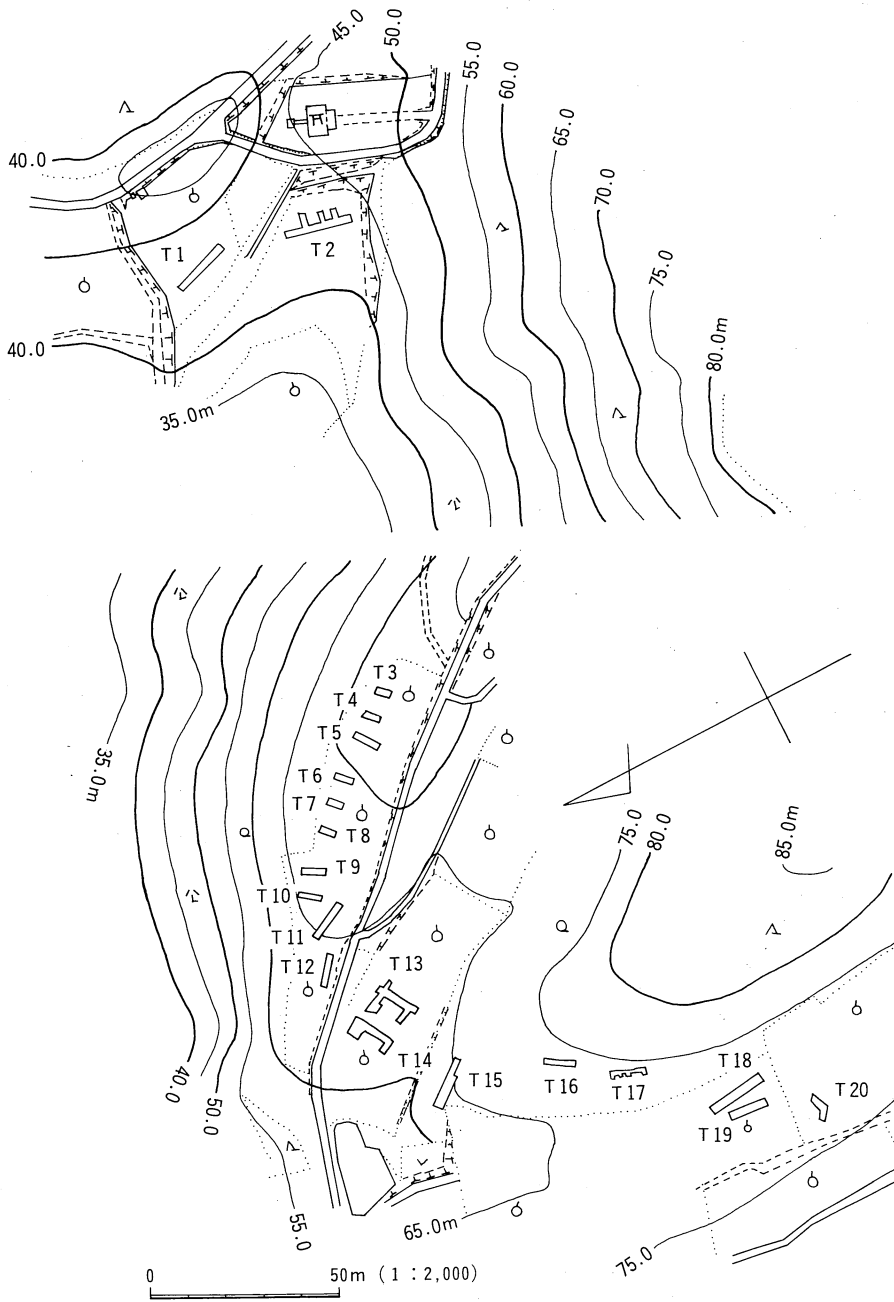
各トレンチ調査状況一覧表

トレンチ番号	挿図番号	図版番号	深さ (cm)	面積 (㎡)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構	その他
T 1	13		60	21.75	①耕作土 ②茶褐色土	②層より土師器細片4個	
T 2	13		30	41.7	①耕作土 ②茶褐色土	②層より土師器細片22個 地山面より台付壺の台部1点	
T 3	13		100	7.05	①耕作土 ③茶褐色土混黄褐色土 ④茶褐色土混黄褐色土（黒色粒土混） ⑤黄褐色土 ⑥茶灰色土 ⑦赤褐色土	土師器細片11個	
T 4	13		110	8.46	①耕作土 ③茶褐色土混黄褐色土 ⑧茶褐色土混黄褐色土（土塊混） ⑨茶褐色土混黒色粒土 ⑤黄褐色土 ⑦赤褐色土	なし	
T 5	13		70～150	14.6	①耕作土 ⑩茶灰色土混茶褐色土 ③茶褐色土混黄褐色土 ⑪黄褐色土混茶褐色土 ⑫茶褐色土混黒灰色土 ⑤黄褐色土 ⑦赤褐色土	地山面より甕口縁1点 ⑫層より鼓型器台の受部2点 ⑫層その他より土師器小片17個 土師器細片69個	
T 6	14		60	9.36	①耕作土 ②茶褐色土混赤褐色土	②層より土師器片10個	
T 7	14		50～100	7.65	①耕作土 ②茶褐色土混赤褐色土 ③茶褐色土混暗茶褐色土	なし	
T 8	14		60	8.4	①耕作土 ④茶褐色土	なし	
T 9	14		50～150	10.8	①耕作土 ⑤茶灰色土 ⑦黄褐色土混茶褐色土 ⑥赤褐色土	②層より土師器片46個	

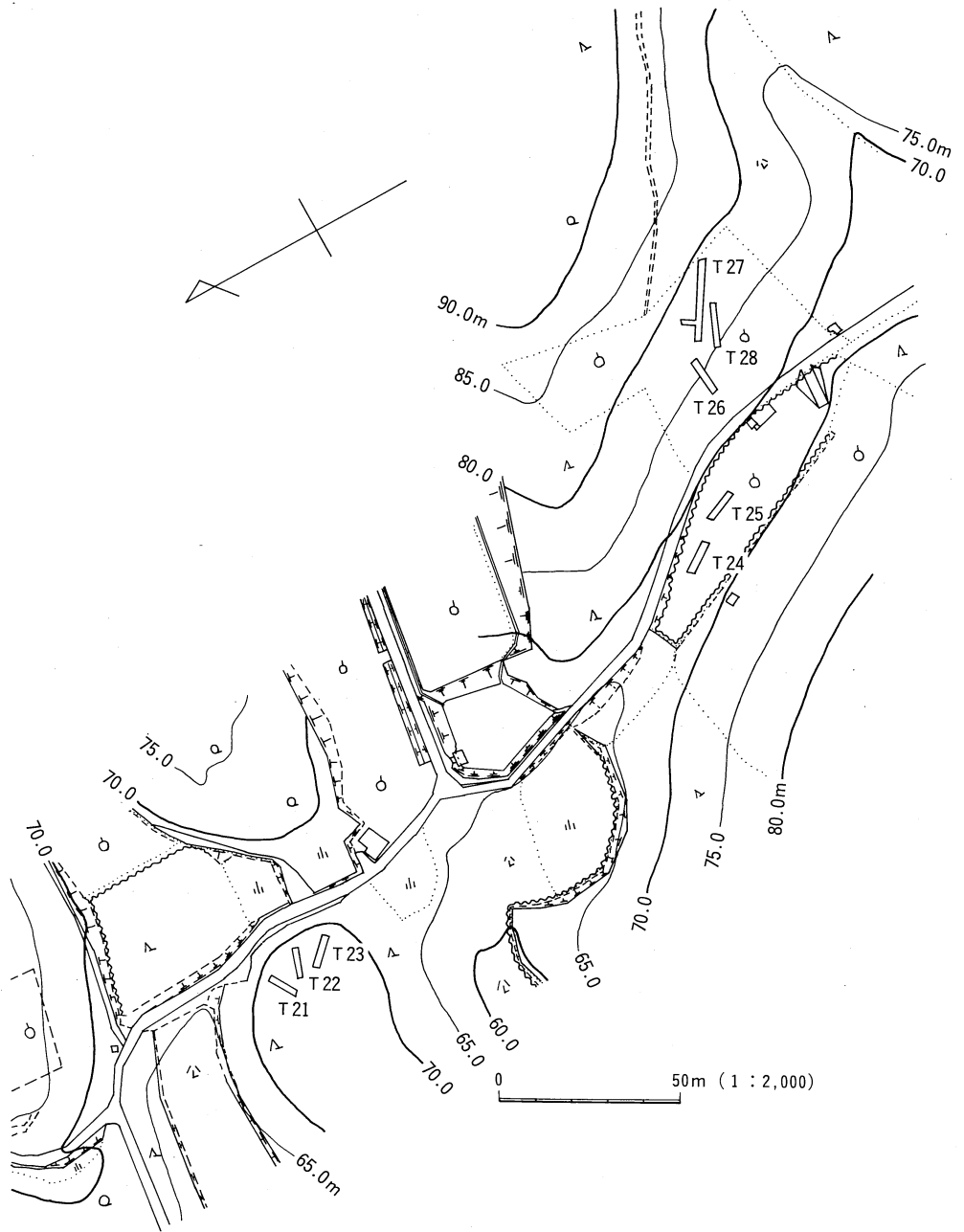
トレンチ 番号	挿図 番号	図版 番号	深さ (cm)	面積 (m ²)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構	その他
T10	14		70~100	9.28	①耕作土 ④茶褐色土 ⑥赤褐色土 ⑤茶灰色土	⑤層より甕口縁1点 ⑤層より高杯の杯1点 ⑤層より甕口縁1点 ⑤層より土師器片149個	
T11	14		30~100	17.4	①耕作土 ⑤茶灰色土 ⑧茶褐色土(レキ粒混) ④茶褐色土 ⑨暗茶灰色土	④層より土師器片594個	
T12	14		40	9	①耕作土 ⑤茶灰色土(黄褐色土レキ ブロック混)	なし	
T13	15	2	30~100	44.25	①耕作土 ②茶褐色土 ③茶褐色土混黄褐色土(レ キ粒混) ④暗茶褐色土 ⑥赤褐色土	②層より甕口縁3点 ②層より鼓型器台の脚部1 点 ②層より高杯1点 ③層より低脚杯の脚部1点 ③層より甕口縁2点 ②、③層より土師器片478個 住居跡より土師器片28個 竪穴式住居跡1棟検出 床面より柱穴1つと測溝を 確認。	
T14	15	2	20~90	43.25	①耕作土 ②茶褐色土 ⑤茶褐色土混茶灰色土(粘 質土) ⑥茶灰色土混黄色土	隅丸方形の竪穴式住居跡1 棟を検出。床面より北・東 隅から1つずつ、側溝に 沿って2つ計4つと側溝を 確認。住居内床面より甕1 点 住居跡より土師器片277個 住居跡より須恵器片2個 ⑤層より須恵器杯1点 ②・⑤層より土師器片43個 ②・⑤層より須恵器片2個	
T15	15		20~70	23	①腐植土 ②茶褐色土 ⑧黄褐色土(粘土レキ混)	②層より土師器片5個 ②層より須恵器片1個	
T16	15		70	12	①腐植土 ②茶褐色土 ⑦黄褐色土 ⑧黄褐色土(粘土レキ混)	なし	
T17	15		60	10.5	①腐植土 ②茶褐色土 ⑦黄褐色土	なし	
T18	16		120	25.5	①耕作土 ②茶褐色土 ③茶褐色土混暗茶褐色土 ④黄褐色土混茶褐色土	②・③・④層より 土師器片126個 須恵器片20個	
T19	16		150	21	①耕作土 ②茶褐色土 ⑤暗茶灰色土 ⑥暗茶褐色土混黄褐色土	②・⑤・⑥層より 土師器片585個 須恵器片54個 鉄1個	
T20	16	3	50~80 (サブトレ 120cm)	15	①耕作土 ⑦茶灰色土 ⑤暗茶灰色土 ⑥暗茶褐色土混黄褐色土 ⑧暗茶褐色土 ②茶褐色土 ⑨黄褐色土混暗褐色土	竪穴式住居跡1棟検出 床面に柱穴5つと側溝を確 認。トレンチ中央に径80cm にわたり焼土も検出。 ⑦層より甕口縁2点 ②層より甕口縁1点 ⑨層よりすり石1点 ②・③・⑤・⑥層などより 土師器片161個 須恵器片21個	
T21	16		30~50 (サブトレ 70)	9.84	①腐植土 ②茶褐色土 ⑩茶褐色土混黄褐色土 ⑧暗茶褐色土 ⑪黄褐色土 ⑫黒色土	②層より甕口縁1点 ②層より土師器片29個	

トレンチ 番号	挿図 番号	図版 番号	深 さ (cm)	面 積 (㎡)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構	その他
T22	16	3	20~110	11.2	①腐植土 ⑧暗茶褐色土 ⑬黒灰色土 ⑪黄褐色土 ⑭淡茶色土 ⑮黄褐色土混淡茶色土 ②茶褐色土	なし	
T23	16		20~60	13.44	①腐植土 ⑧暗茶褐色土 ②茶褐色土 ⑬黒灰色土 ⑭淡茶色土	土師器片 3個	
T24	17		90	10.8	①耕作土 ②茶灰色土 ③黄褐色土	なし	
T25	17		50	9.96	①耕作土	なし	
T26	17		40~110	12.35	①耕作土 ②茶灰色土 ④黒灰色土 ⑤暗茶灰色土	なし	
T27	17		10~90	32.4	①耕作土 ③黄褐色土 ②茶灰色土 ⑥茶褐色土混黄褐色土	なし	
T28	17		50~80	14.4	①耕作土 ③黄褐色土 ②茶灰色土	なし	
T29	18		60	9.8	①腐植土 ②茶灰色土 ③暗茶灰色土 ④茶褐色土	なし	
T30	17		20~40	7.7	①腐植土 ②茶灰色土 ⑦茶褐色土	なし	
T31	18		40	12.75	①腐植土 ②茶灰色土 ④茶褐色土	なし	
T32	18		50	9.75	①腐植土 ②茶灰色土 ④茶褐色土 ⑤黒灰色土	なし	
T33	18		30~70	17.98	①腐植土 ②茶灰色土 ④茶褐色土	なし	
T34	18		20	11.76	①腐植土 ④茶褐色土	なし	
T35	18		50~80	12.6	①腐植土 ②茶灰色土 ④茶褐色土	なし	
T36	18		30~40	15.75	①腐植土 ④茶褐色土 ②茶灰色土 ⑥黒褐色土	なし	
T37	18		50	6.5	①腐植土 ②茶灰色土 ⑤黒灰色土 ④茶褐色土	なし	
T39	19		50	14.42	①腐植土 ②茶灰色土 ③茶褐色土	なし	

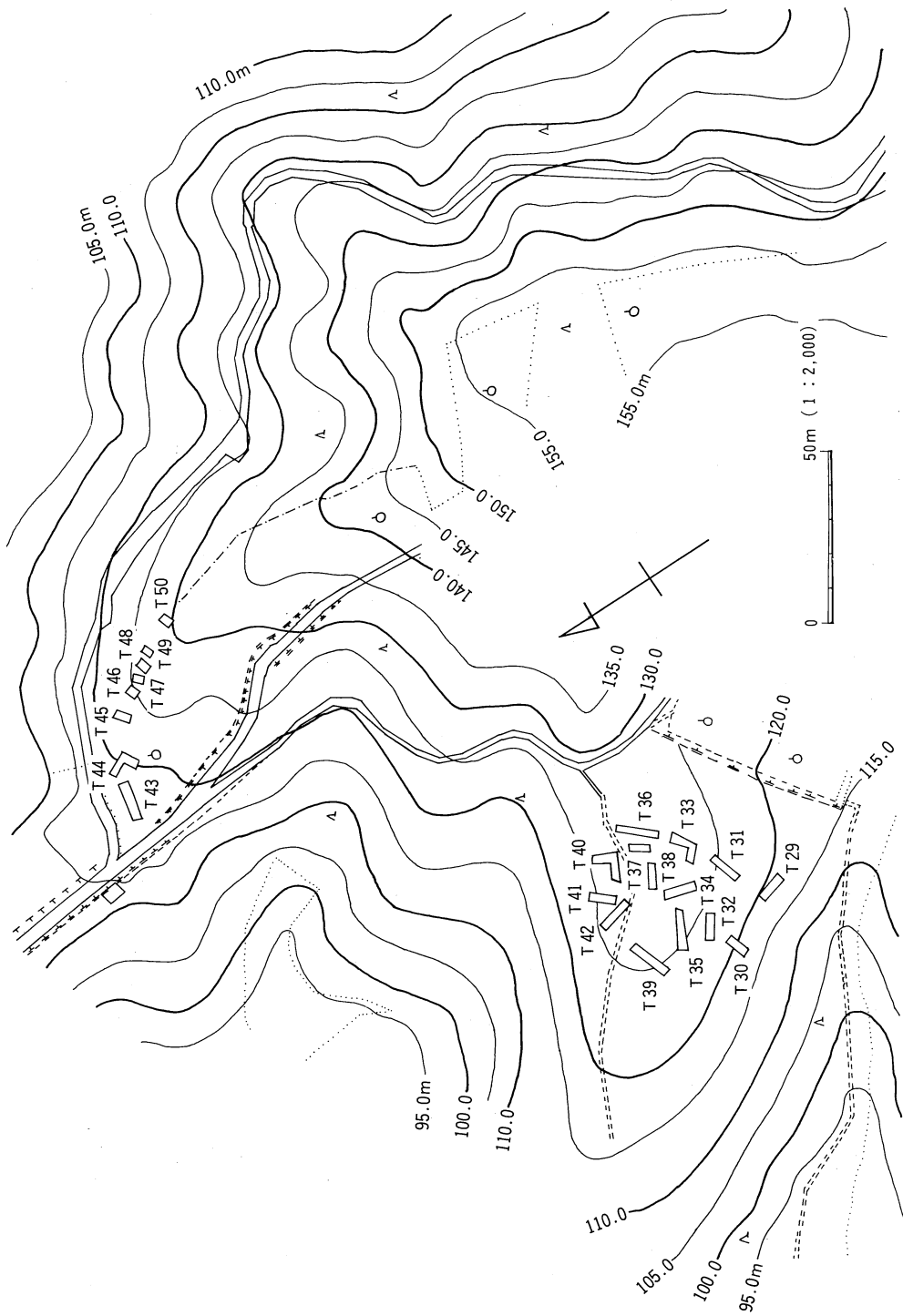
トレンチ 番号	挿図 番号	図版 番号	深 さ (cm)	面 積 (㎡)	土層堆積等調査状況	出土遺物・遺構	その他
T40	19		50~70	19.5	①腐植土 ④黒灰色土 ②茶灰色土 ⑤暗茶灰色土混黒褐色土 ③茶褐色土	なし	
T41	19		40~60	8.16	①腐植土 ②茶灰色土 ⑥暗茶灰色土 ③茶褐色土	なし	
T42	19		40~60	11.7	①腐植土 ⑥暗茶灰色土 ③茶褐色土	なし	
T43	19		40~110	12.6	①耕作土 ③茶褐色土 ⑦茶褐色土混黄褐色土 ⑧茶褐色土混黄褐色土 (小 レキ粒混) ⑨赤褐色土 (小レキ粒混)	なし	
T44	20		50~100	12.6	①耕作土 ②黄褐色土 ③茶褐色土 ④茶褐色土混黄褐色土 ⑤暗茶褐色土 ⑥暗茶褐色土 (大レキ粒混 り)	なし	
T45	20		30~50	3.3	①腐植土 ⑤暗茶灰色土 ②黄褐色土	なし	
T46	20		50	2.53	①腐植土 ⑦暗茶灰色土 ②黄褐色土	なし	
T47	20		50	2.3	①腐植土 ⑦暗茶灰色土	なし	
T48	20		50	1.8	①腐植土 ⑦暗茶灰色土 ②黄褐色土	なし	
T49	20		50	2.04	①腐植土 ⑦暗茶灰色土	なし	
T50	20		60	1.76	①腐植土 ②黄褐色土	なし	
T51	20		50	40.6	①腐植土 ⑧茶灰色土 (黄粒少量混 り)	①層より土師器片17個 ⑧層より須恵器片13個	
T52	21		60	44.25	①腐植土 ②黄褐色土混暗茶褐色土 ③茶褐色土	なし	
T53	21		100~120	39.5	④盛土 (黒灰色土混黄褐色 盛土) ⑤暗茶褐色土 ⑥黄褐色土 ⑦茶灰色土 ⑧黄褐色土混黒灰色土 ⑨黒灰色土混黄褐色土 ⑩黒灰色土 ⑪茶褐色土 ⑬黒色土 ⑫黒褐色土混黄褐色土 ①腐植土	古墳があり、石棺が露出し ている。 ⑪層より土師器片13個 ⑫層より須恵器片3個	



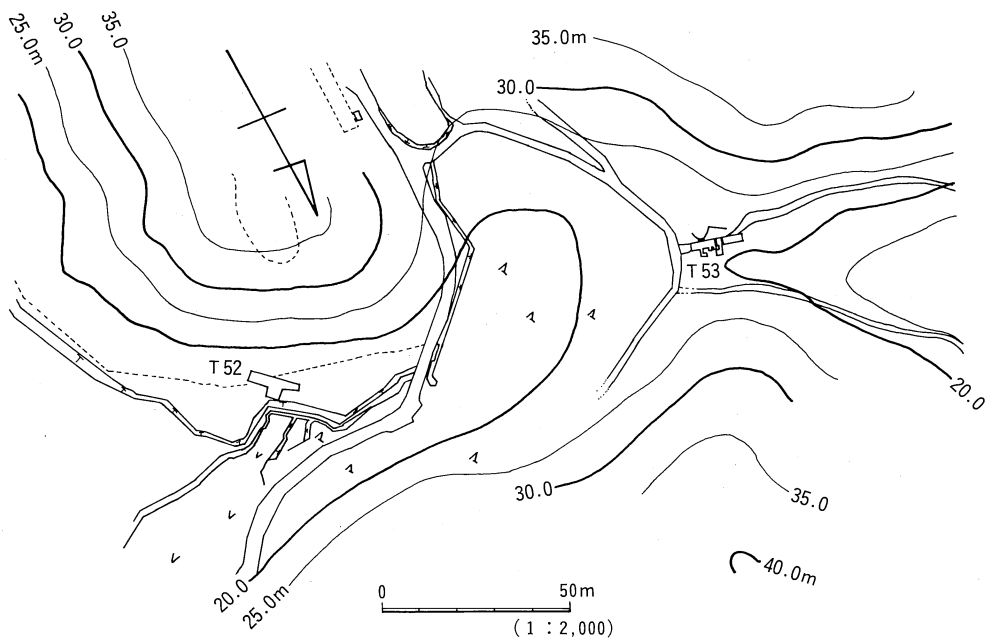
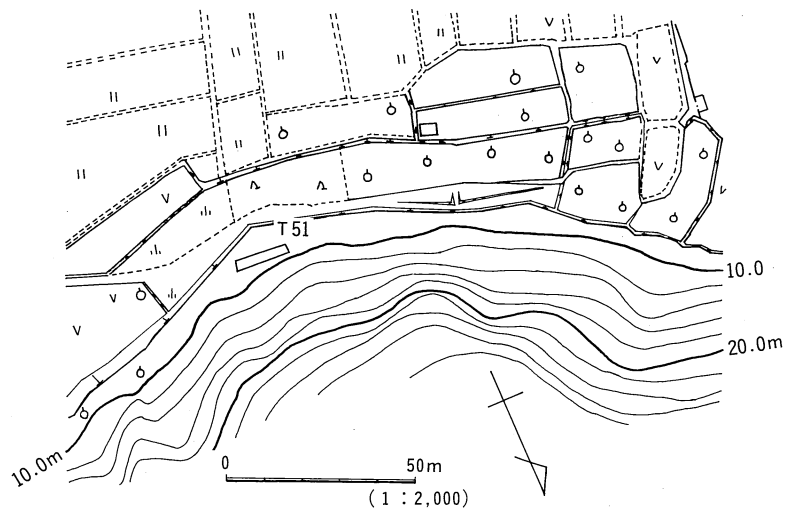
挿図9 曲地区トレンチ (T1~T20) 設置図



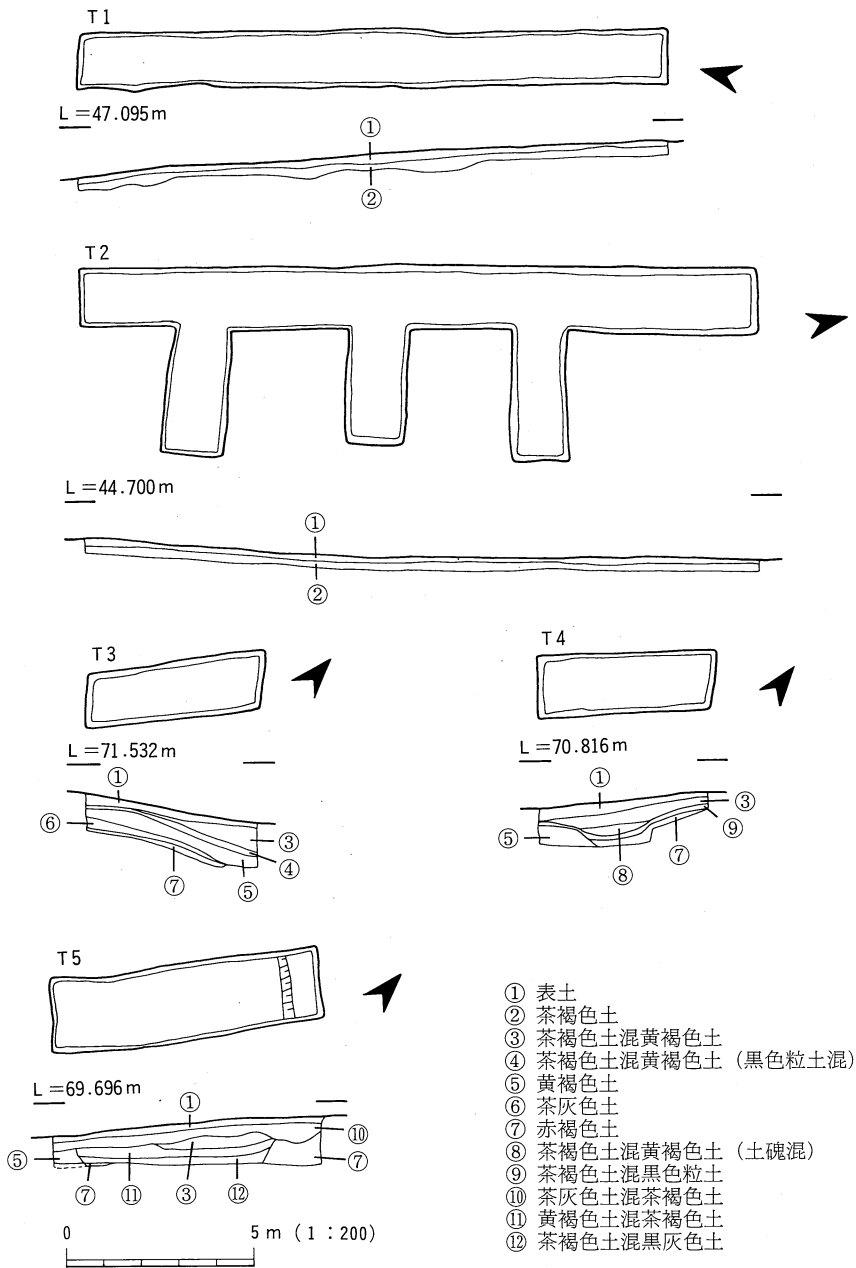
挿図10 曲地区トレンチ設置図 (T21~T28)



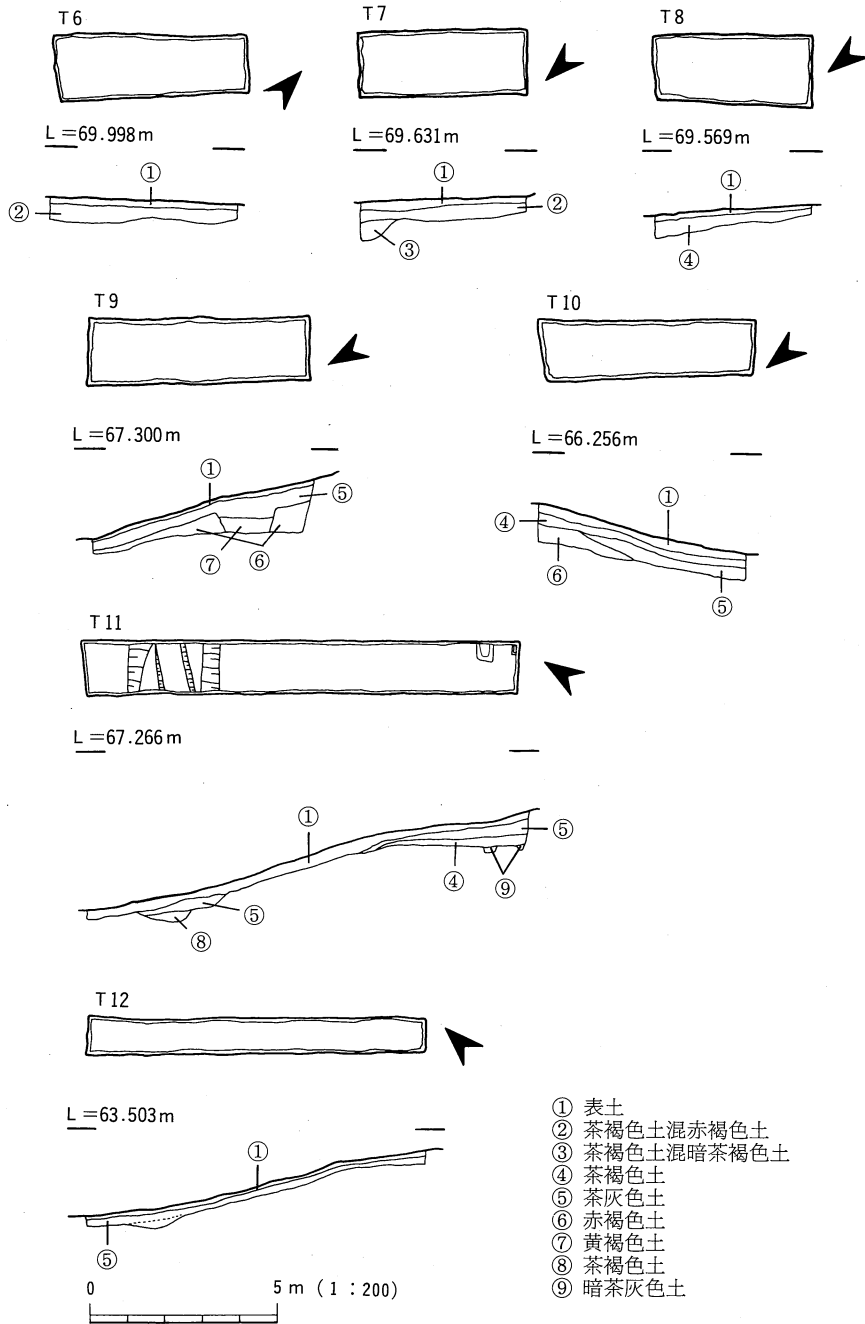
挿図11 曲地区トレンチ設置図 (T29~T50)



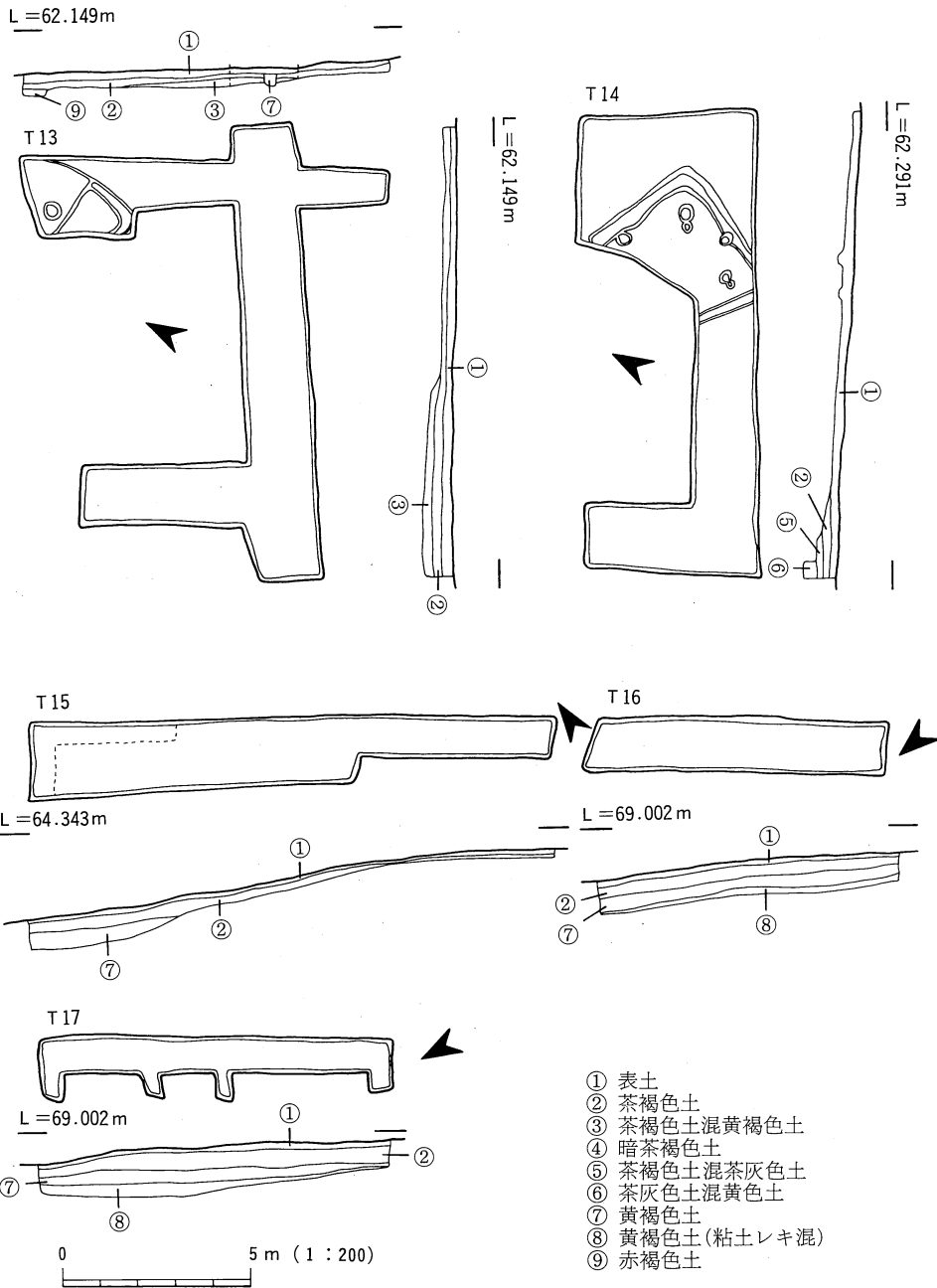
挿図12 島地区トレンチ設置図 (T51~T53)



挿図13 曲地区トレンチ平・断面図 (T1~T5)



挿図14 曲地区トレンチ平・断面図 (T6 ~ T12)



挿図15 曲地区トレンチ平・断面図 (T13~T17)

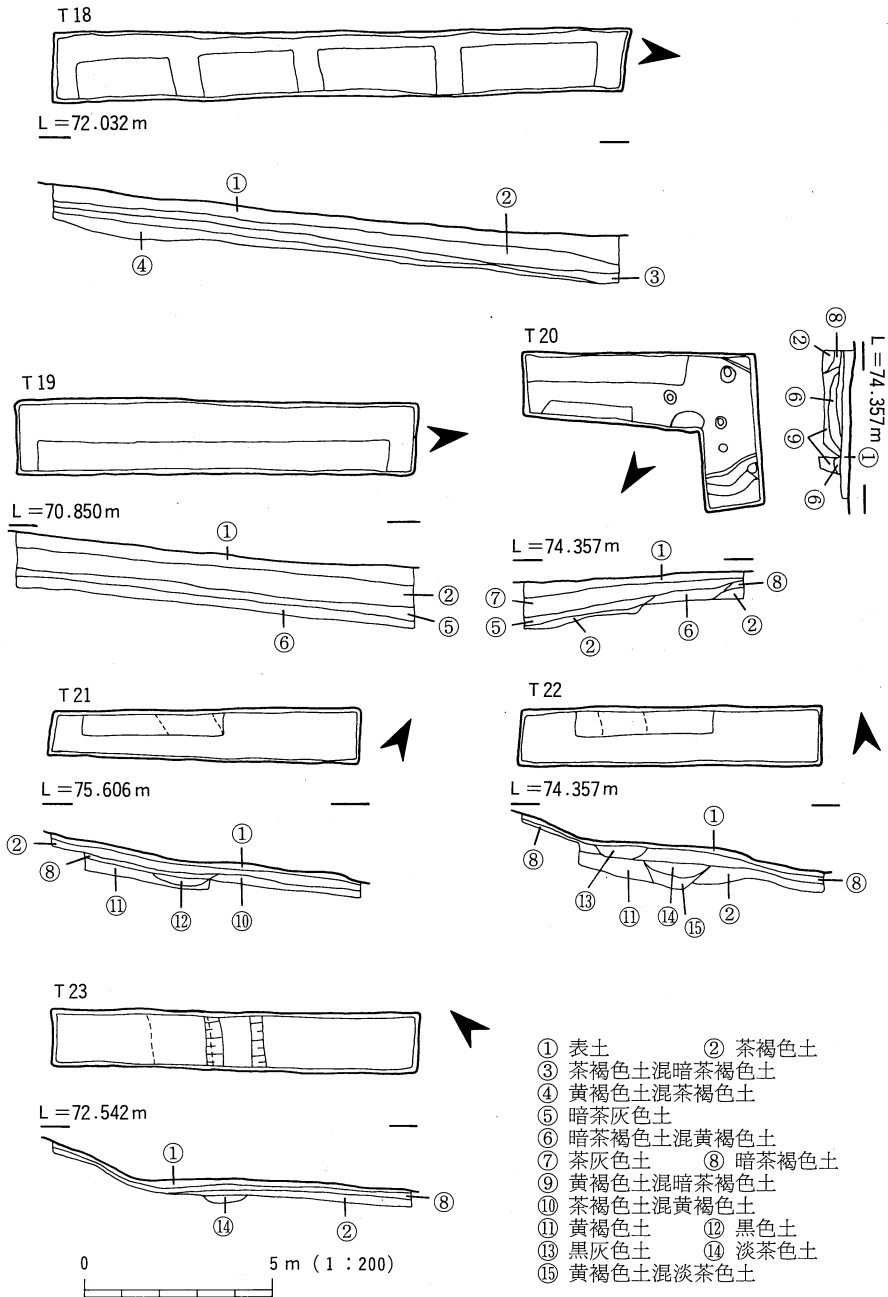
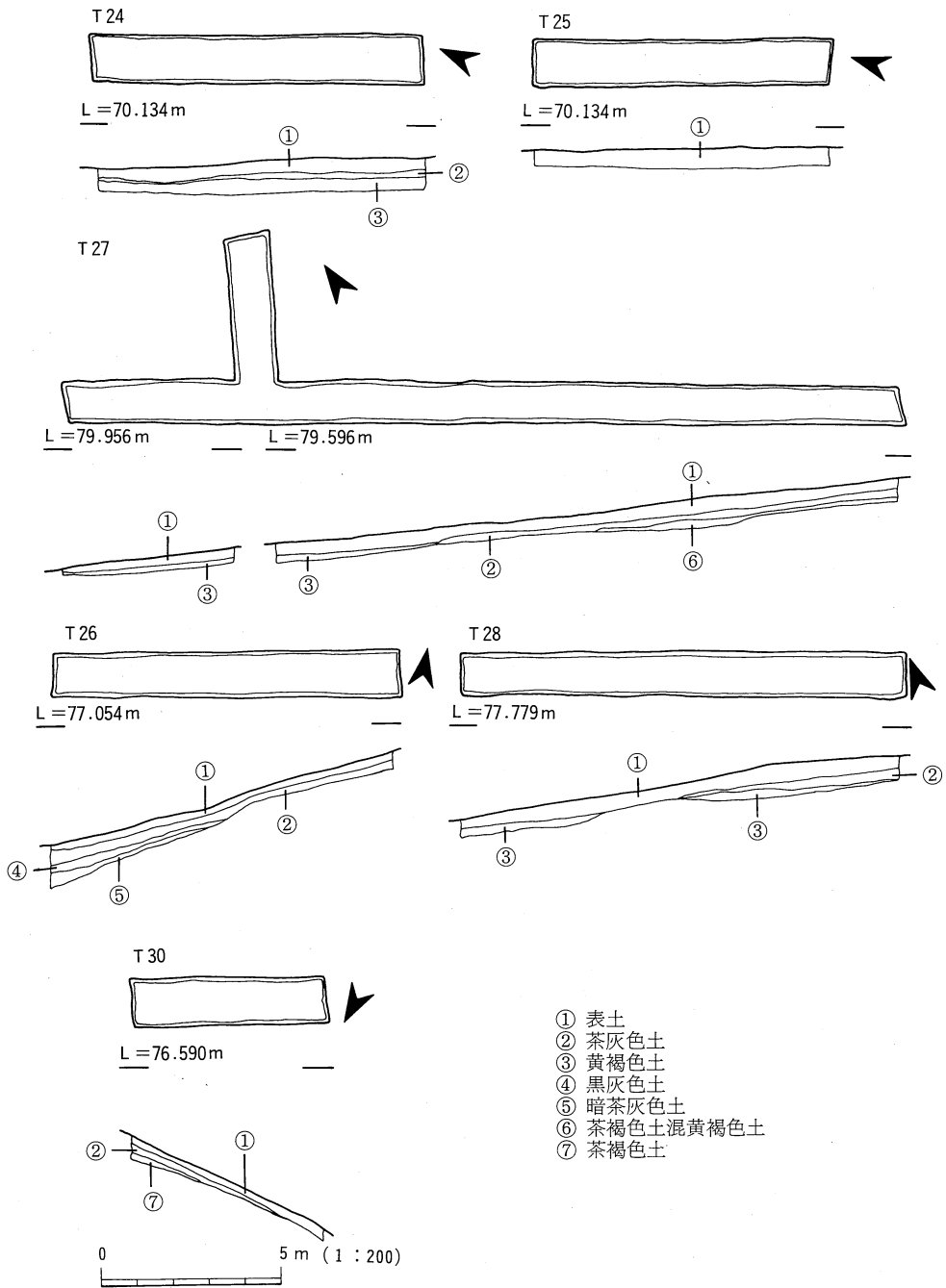
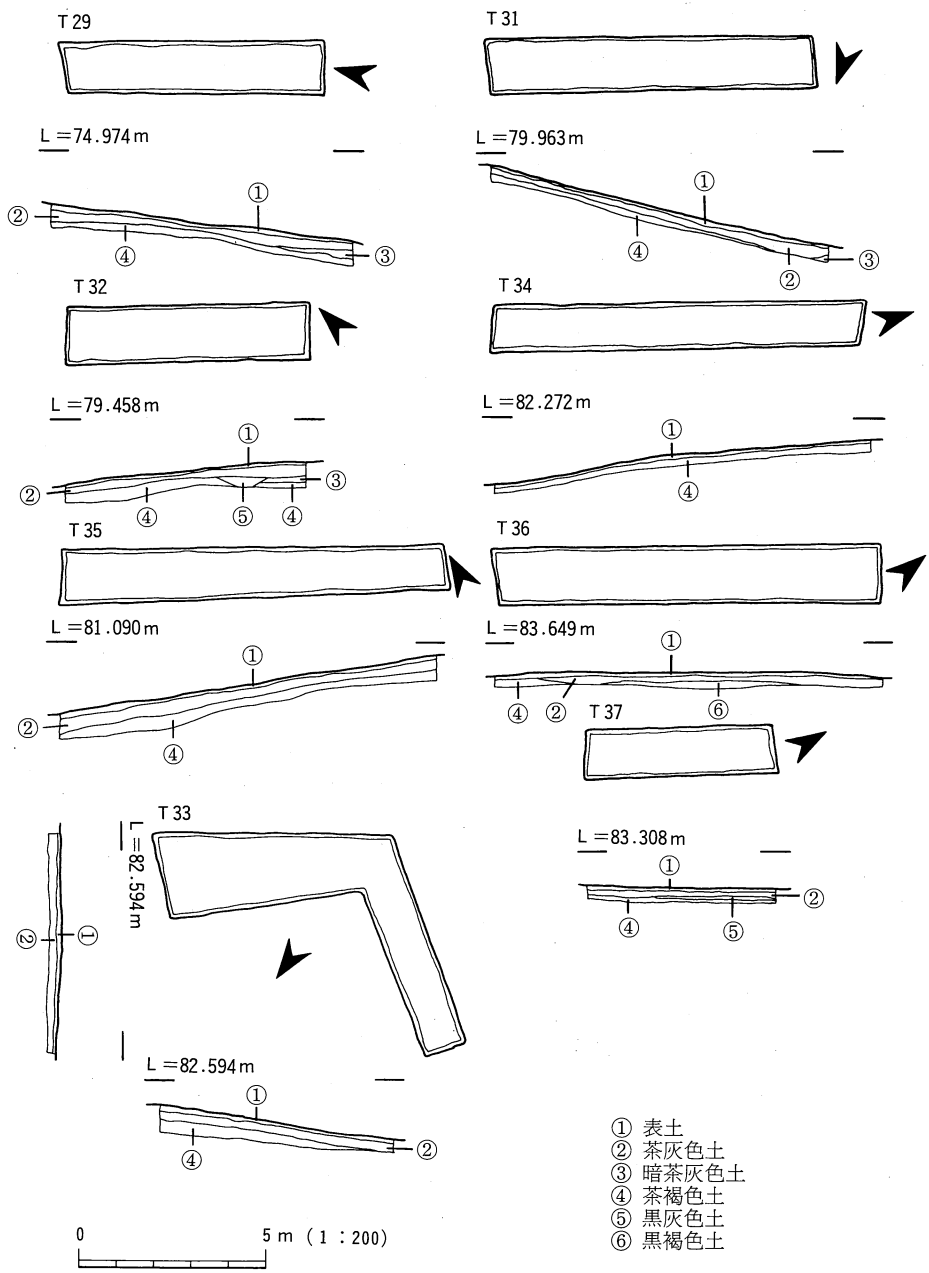


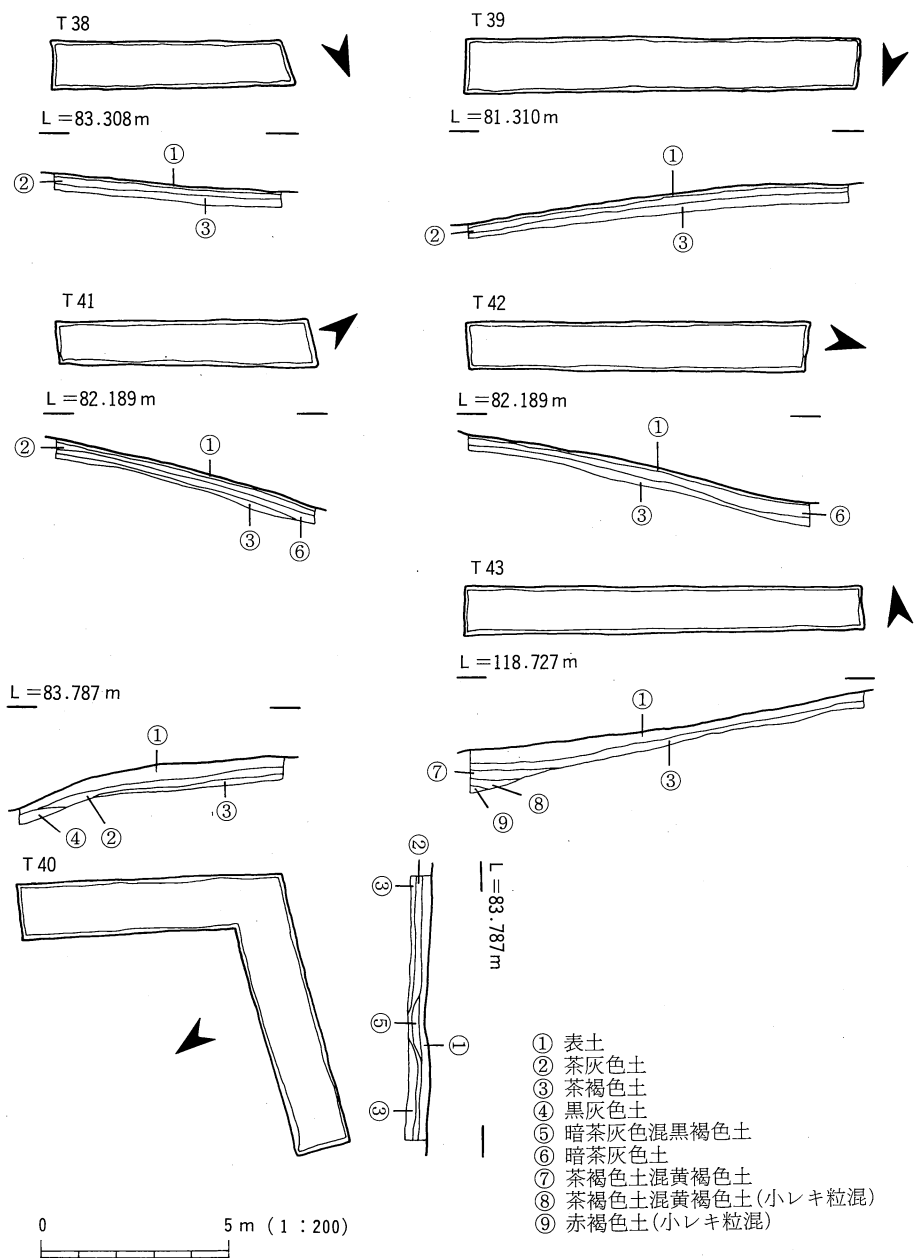
插图16 曲地区トレンチ平・断面図 (T18~T23)



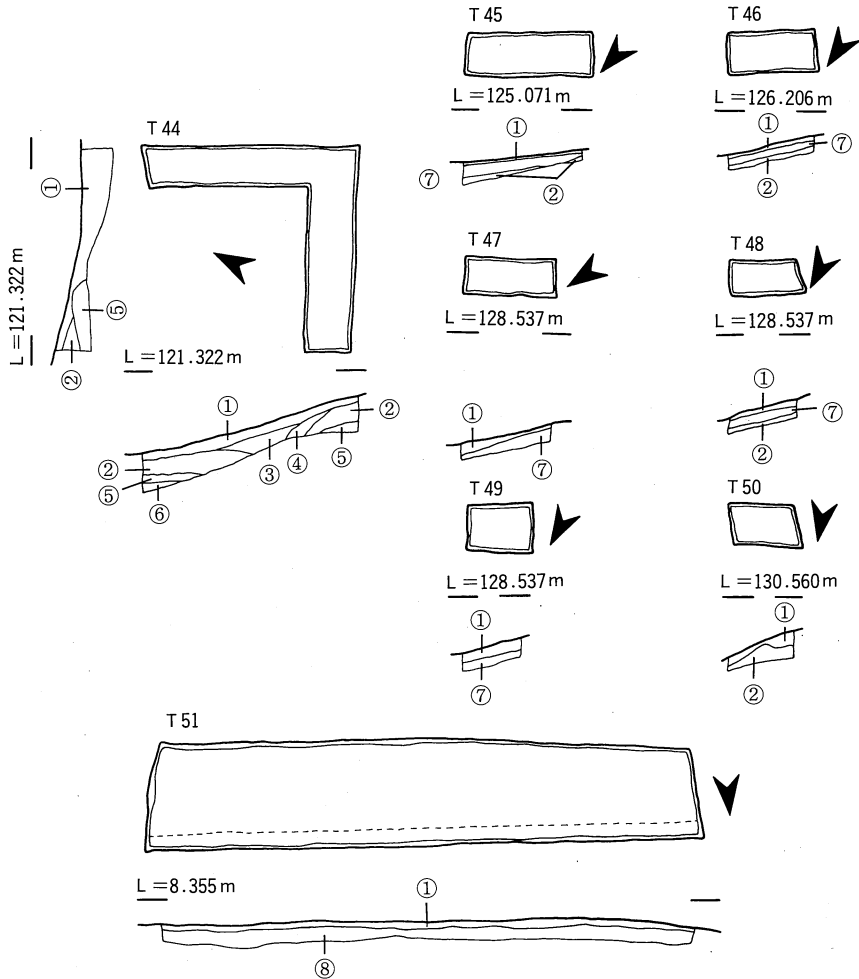
挿図17 曲地区トレンチ平・断面図 (T24~T28・T30)



挿図18 曲地区トレンチ平・断面図 (T29・T31~T37)



挿図19 曲地区トレンチ平・断面図 (T38~T43)

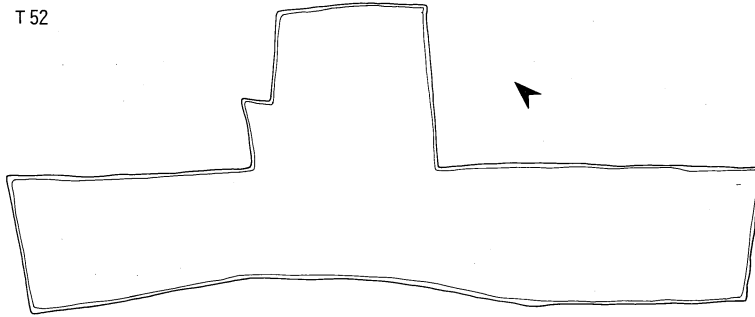


- ① 表土
- ② 黄褐色土
- ③ 茶褐色土
- ④ 茶褐色土混黄褐色土
- ⑤ 暗茶褐色土
- ⑥ 暗茶褐色土(大レキ粒混)
- ⑦ 暗茶灰色土
- ⑧ 茶灰色土

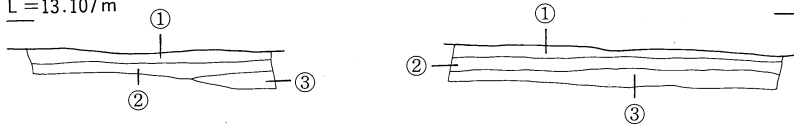
0 5 m (1 : 200)

挿図20 曲地区・島地区トレンチ平・断面図 (T44~T51)

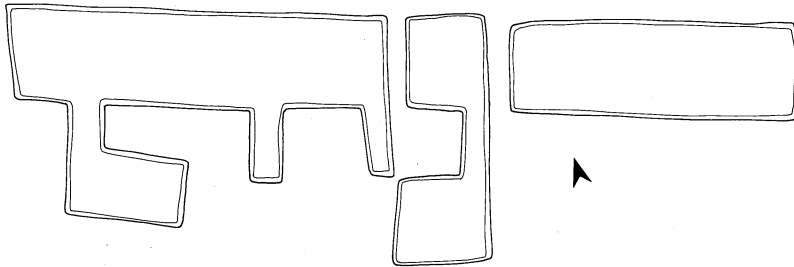
T 52



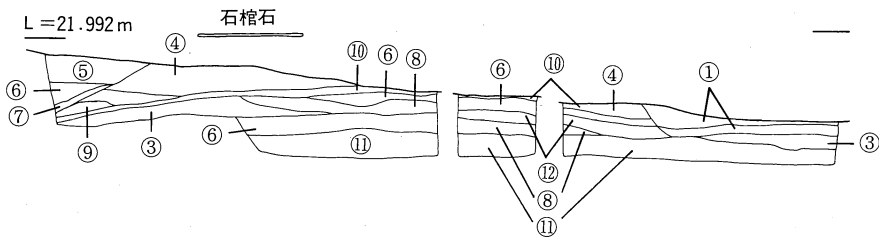
L = 13.107 m



T 53



L = 21.992 m



- ① 表土
- ② 黄褐色土混茶褐色土
- ③ 茶褐色土
- ④ 盛土(黒灰色土混黄褐色盛土)
- ⑤ 暗茶褐色土
- ⑥ 黄褐色土
- ⑦ 茶灰色土
- ⑧ 黄褐色土混黒灰色土
- ⑨ 黒灰色土混黄褐色土
- ⑩ 黒灰色土
- ⑪ 黒色土
- ⑫ 黒褐色土混黄褐色土

0 5 m (1 : 150)

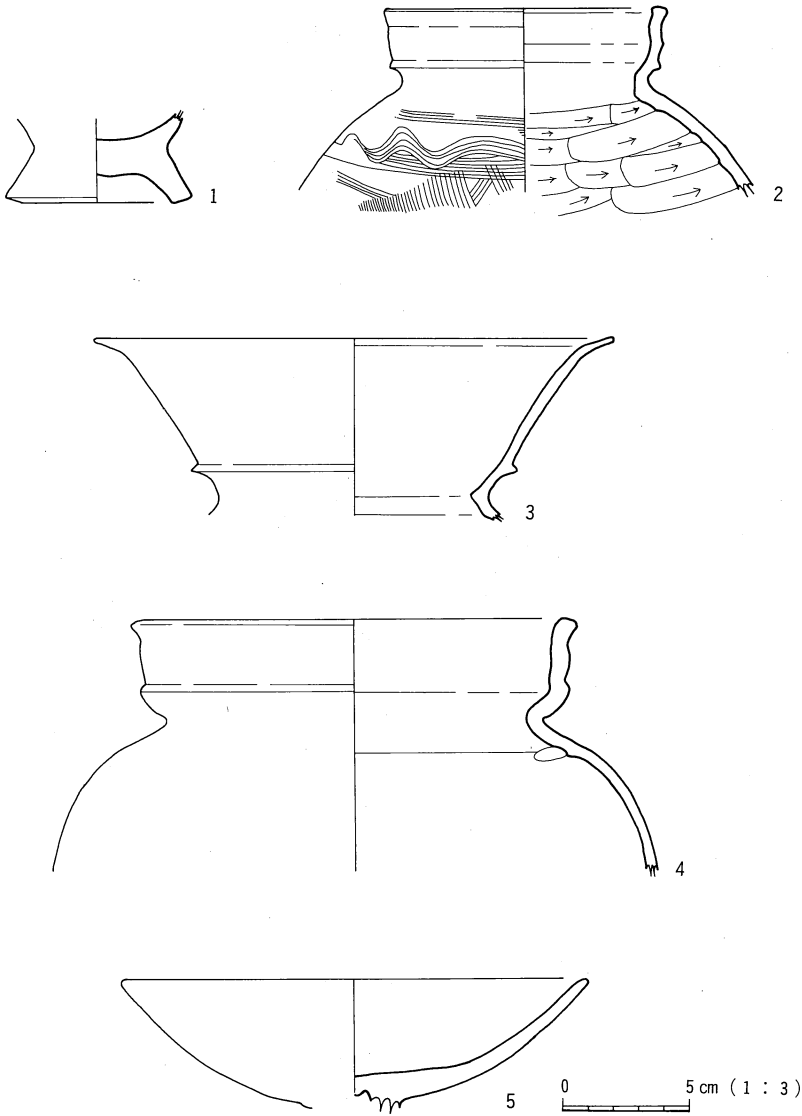
挿図21 島地区トレンチ平・断面図 (T52・T53)

4. 平成6年度出土遺物

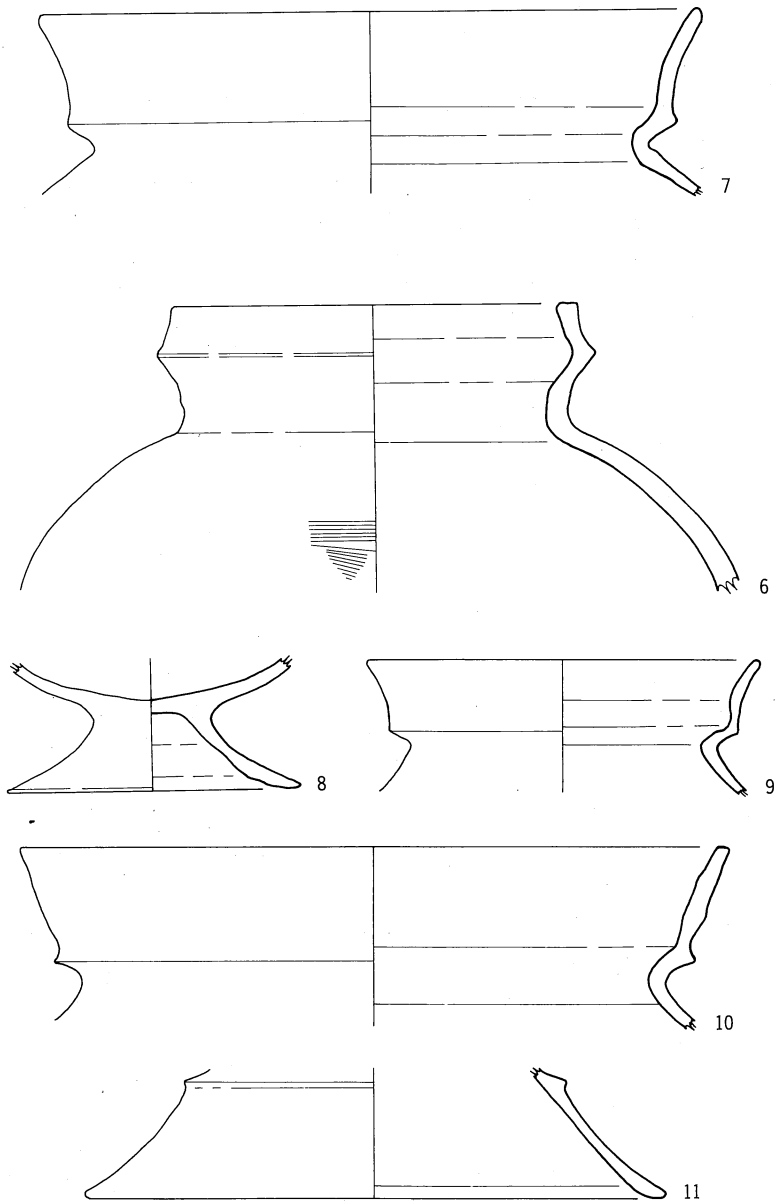
遺物番号	名称	出土場所	挿図	図版	法量	時代	形態	手法	焼成	色調	胎土
1 (N1)	台付壺 (台部)	T2	22	4	脚底部径 7.3cm	古墳前期 (4C)	脚底部は厚く角ばっており安定している。	はく落が激しく調整観察不可能。	やや不良	(脚部)淡赤茶褐色 (受部)淡黄褐色	不良 1mm大の砂粒含
2 (N2)	甕	T5	22	4	口径10.8cm	古墳前期末 (4C末)	頸部はくの字に屈曲し、複合口縁でふくらみをもちながら外傾し、端部は角ばり、内側にはやや肥厚する。ススが付着。壁厚は普通。	口縁部内面はヨコナデ。体部外面は、肩部から下に浅いカキ目状沈線(横方向ハケ目)があり、ハケ目の上に波状文とその下にタテ方向ハケ目を施す。内面は左方向ヘラ削り。	良	茶褐色	良 砂粒含
3 (N3) (N4)	鼓型器台 (受部)	T5	22	4	口径20.2cm	古墳前期前葉 (4C前半)	頸部がくの字に大きく屈曲する。大きく外反し薄く丸い端部と、横につまみ出された下端部をもつ複合口縁。壁厚は薄い。	外面はヨコナデ。内面は調整不明。	不良	淡黄褐色	やや不良
4 (N5)	甕	T10	22	4	口径17.0cm	古墳前期後半 (4C後半)	頸部はくの字に屈曲し、外傾ぎみの複合口縁。口縁端部は外側に肥厚し、摩擦しているためやや丸味をおびている。	胴部ははく落が激しく調整不明。外面頸部以上はヨコナデ。体部内面頸部下にヘラケズリが見られる。	不良	赤黄褐色	やや不良 1~2mm大の砂粒含
5 (N6)	高杯 (杯)	T10	22	5	口径18.5cm	古墳前期前半 (4C初頭)	下半でやや丸味をもちながら、その上は直線的に口縁端部までのびる。端部は丸味をもつ。壁厚は薄い。	内面に一部ナデのあとが見られる。	不良	黄褐色	やや不良 砂粒含
6 (N7) (N8)	壺	T10	23	5	口径16.2cm	古墳中期前半 (5C前半)	頸部はくの字に屈曲して、短く内傾した複合口縁。端部はやや肥厚し角ばっている。壁厚は普通。	外面肩部以下指ナデ。内面頸部以下未調整。体部外面肩部付近に横方向のハケ目が認められる。	不良	茶褐色	不良 1~3mm大の砂粒含
7 (N9)	甕	T13	23	5	口径26.0cm	古墳前期前半 (4C初頭)	頸部は短く、くの字に屈曲し斜め上方へやや外傾した複合口縁。口縁端部は丸くかかり気味で、下端部はやや上につまみだす。壁厚は薄い。	外面及び内面頸部以上は調整不明。内面頸部以下ヘラケズリ。	不良	淡黄褐色	やや不良 細砂含
8 (N10)	低脚杯 (脚部)	T13	23	5	脚底部径 11.4cm	古墳前期前半 (4C初頭)	脚柱部にゆるやかなカーブをもち裾部へ広がる。脚端部は薄くかかり気味。	調整不明。	やや不良	淡黄褐色	良
9 (N11)	甕	T13	23	5	口径15.4cm	古墳前期前半 (4C初頭)	頸部はくの字に屈曲しやや外傾した複合口縁。口縁端部は薄く丸味をおびる。	調整不明。	不良	淡赤茶褐色	不良
10 (N12)	甕	T13	23	5	口径27.6cm	古墳前期前半 (4C初頭)	口縁部はゆるく内傾気味の複合口縁。口縁端部は角ばっており、下端部はすだく横につまみ出されている。壁厚はやや厚め。	調整不明。	やや不良	淡黄褐色	良 細砂含

遺物番号	名称	出土場所	挿図	図版	法量	時代	形態	手法	焼成	色調	胎土
11 (N13)	鼓型器台 (脚部)	T13	23	5	脚底部径 22.6cm	古墳前期 後半 (4C後半)	長くゆるやかに外反しており、脚部端は丸く肥厚している。屈曲部の下端は鋭く屈曲する。	調整不明。	やや不良	赤黄褐色	やや不良 1mm前後の細砂含
12 (N14)	甕	T13	24	5	口径21.2cm	古墳前期 初頭 (4C初頭)	上方へやや外傾している複合口縁。口縁端部は薄く丸味をおび、下端部は横へすどく屈曲する。	調整不明。	不良	淡黄褐色	不細砂 良含
13 (N15)	甕	T13	24	6	口径24.0cm	古墳前期 初頭 (4C初頭)	頸部はくの字屈曲し、やや外傾気味の複合口縁。口縁端部は摩滅しているため丸く、外側にやや肥厚している。肩部はゆるやかにカーブを描く。壁厚は大変薄い。	はく落が激しいが、肩部外面付近に、クシ描き波状文と下に横方向クシ描き沈線が施される。	不良	淡黄褐色	不細砂 良含
14 (N16)	高杯	T13	24	6	口径21.6cm 器高15.6cm	古墳前期 初頭 (4C初頭)	杯部は下半で丸味をおびつつ斜め上方へのび、口縁端部は丸くやや外反する。脚柱部は接合部分でやくびれ、直線的なカーブを描き裾部は広がるとともに角ばっている。脚端はやや角的に壁厚は薄い。	調整不明。	不良	淡黄茶褐色	不細砂 良含
15 (N17)	甕	T14	24	6	胴部最大径 10.0cm 器高7.5cm	古墳後期 (6C)	肩部がやや張っており、中央よりやや上に丸い穴がある。	肩部にカキ目があり、その下は左方向のヘラケズリ。肩部内面はナデ。	良	青灰色	良
16 (N18)	須恵器杯	T14	24	6	口径13.4cm	古墳中期 (5~6C)	立ち上がりは内傾気味で、受部は水平にのび、端はや丸味をおびる。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面中央に指ナデの浅い溝がある。底部外面は左方向のヘラケズリ。内面はナデ。	良	青灰色	良砂粒含
17 (N19)	すり石	T20	25	6	長径13.1cm 短径9.4cm 厚さ3.6cm 重さ685g		石質は細粒安山岩で楕円形を呈し、全体はなめらかで啃き痕あり。			青灰色	
18 (N21)	甕	T20	24	6	口径21.8cm	古墳前期 前半 (4C前半)	口縁部は外傾しており、端部は外反し外側に肥厚し、角ばっている。下端部は面に対し直角につまみださされているが、やや鋭さを欠く。	口縁部内外面ともヨコナデ。	やや不良	茶灰色	良細砂含
19 (N22)	甕	T20	25	6	口径22.3cm	古墳後期 (6C)	体部から口縁端部までくの字に屈曲する。端部は丸く外傾気味。壁厚は厚い。	頸部内面以下ヘラケズリ。外面ははく落が激しく調整不明。	不良	淡赤黄褐色	不砂粒含 良含
20 (N23)	甕	T20	25	6	口径23.4cm	古墳前期 初頭 (4C初頭)	頸部はくの字に屈曲し、やや外傾気味にのびる複合口縁。口縁端部は摩滅しているため丸味をおびる。下端部は横につまみだす。	内外面とも頸部以上ヨコナデ。体部は内外面とも調整不明。	不良	淡黄褐色	不1~3mm前後の砂礫含 良含

遺物番号	名称	出土場所	挿図	図版	法量	時代	形態	手法	焼成	色調	胎土
21 (N24)	甕	T21	25	6	口径30.0cm	古墳前期 後半 (4C後半)	口縁部はふくらみ をもちながら内傾 して立ち上がって おり、端部は平坦 面をもち下端部は 横方向へやや立ち 上がり気味につま みだしている。	内外面ともに主に ナデ。	良	赤茶褐色	良 細砂含

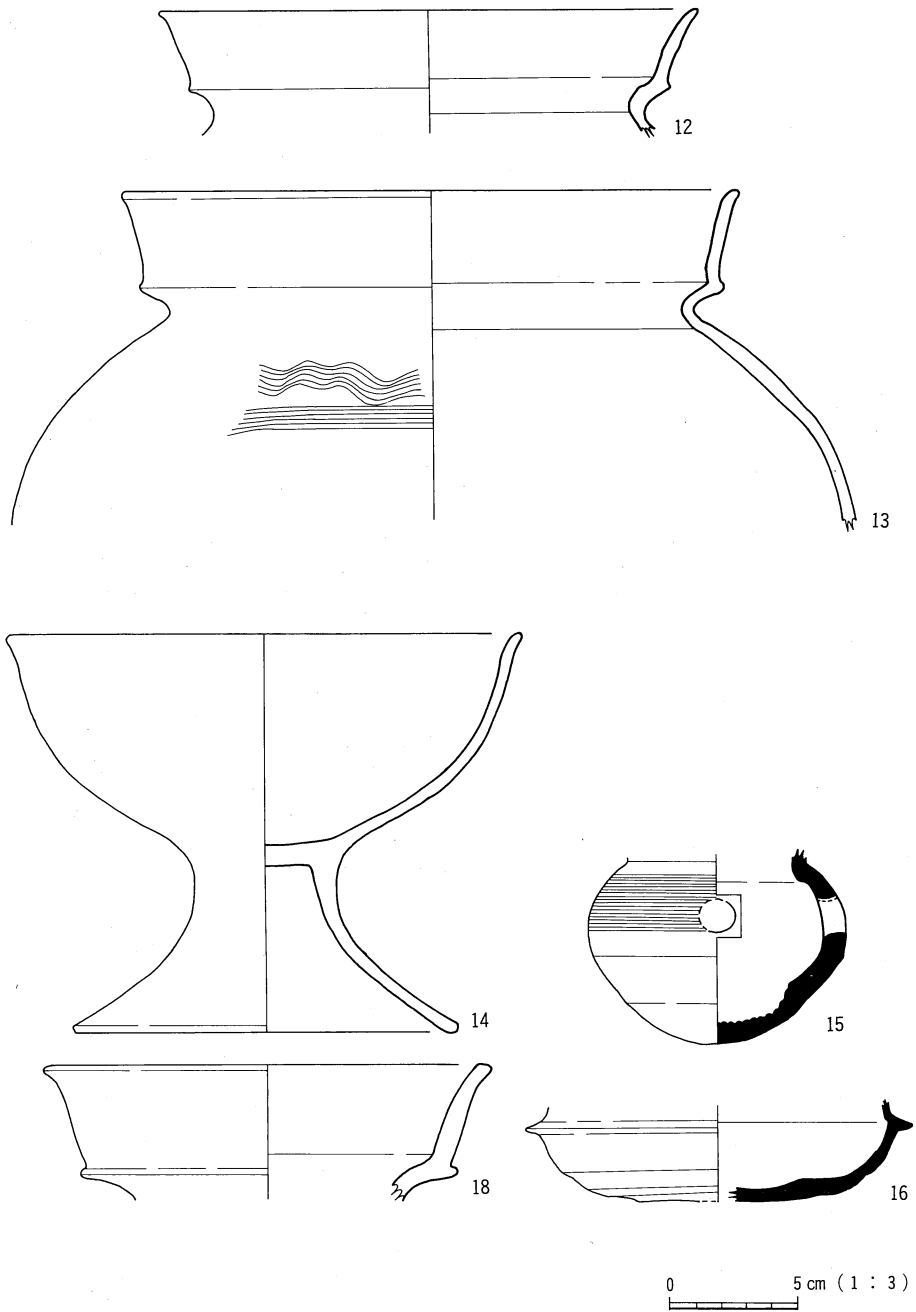


挿図22 出土遺物その3

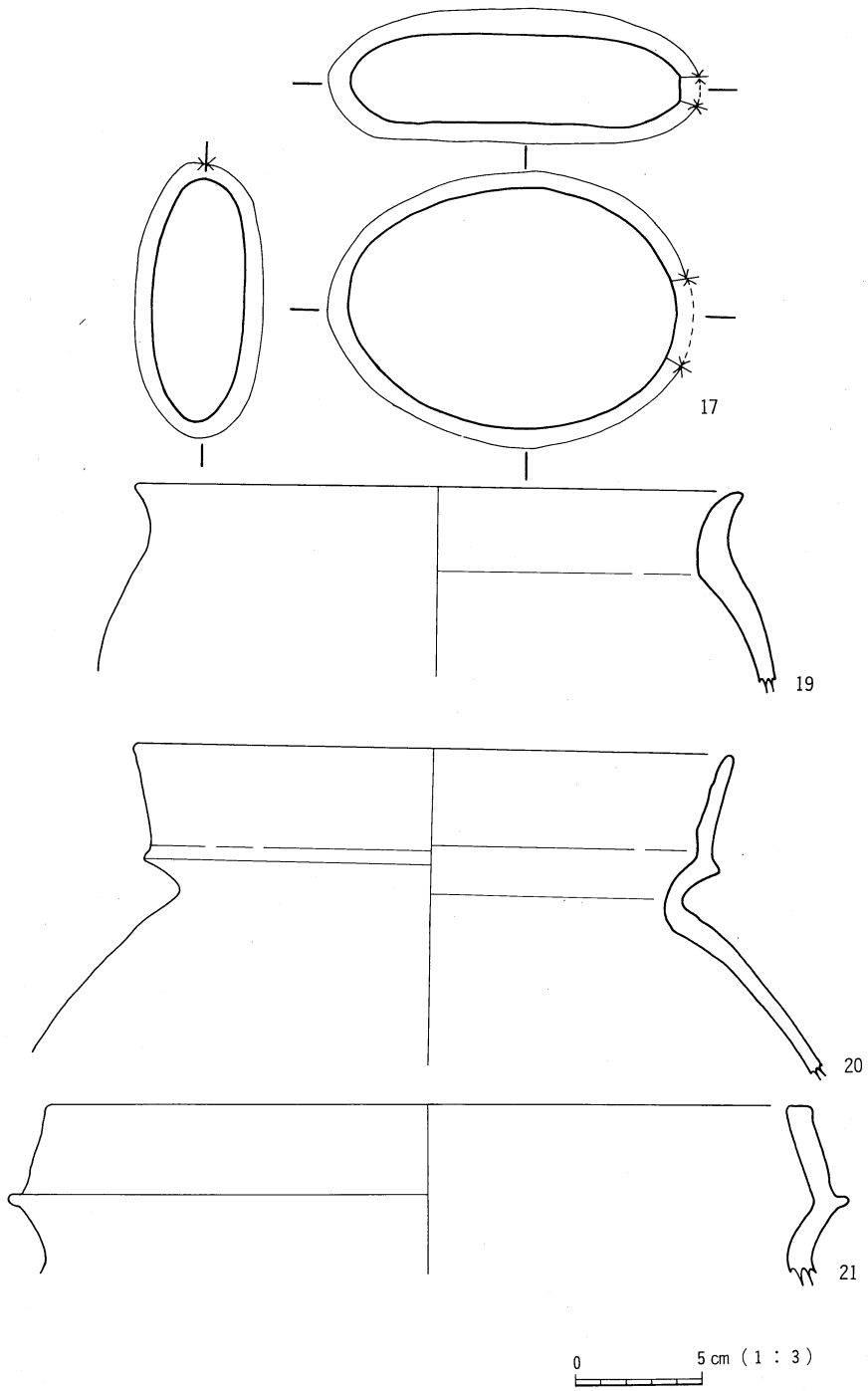


0 5 cm (1 : 3)

挿図23 出土遺物その4



挿図24 出土遺物その5



挿図25 出土遺物その6

第4章 まとめにかえて

平成5年度は、北条町曲字割木谷地区と岡地区に合計21本のトレンチを設定（挿図3・4、P. 6）し、遺跡の有無を確認した。

その結果、割木谷地区のトレンチ（T1～T12）からは、遺物・遺構ともまったく検出されなかった。

岡地区のトレンチ（T13～T21）からは、T16・T17・T18のトレンチより弥生後期～中世に至る遺物多数が検出された。特に、T16・T17のトレンチでは表土中から地山までの各層に遺物が包含されており、T16のトレンチでは、堅穴住居跡と思われる落ち込みが検出された。時代的には、出土遺物から考えると古墳時代後期の堅穴住居跡と思われるがこのトレンチからは、弥生後期～中世までの広範な時代の遺物が検出されてはいるが、遺構としての切り合いは部分的しかなく、遺跡の性格、範囲を明確には言及できない。

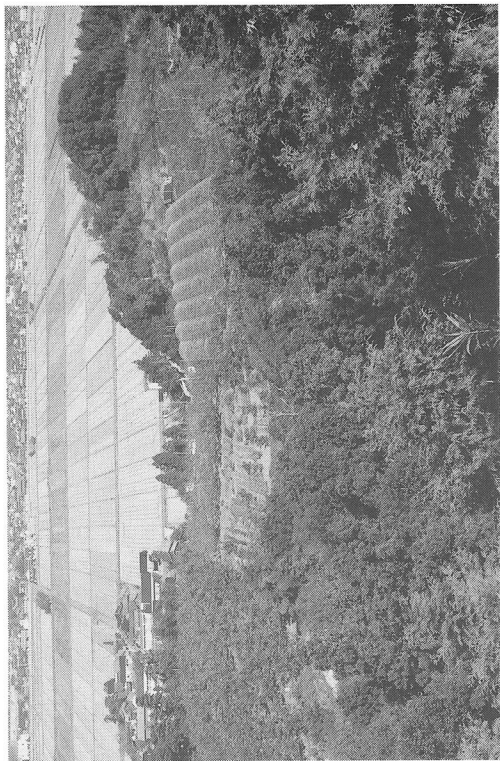
しかし、遺物の出土状況及びその周辺の地形から推定すると、T16のトレンチ北側の標高30～40m前後の丘陵裾部緩斜面で東西方向にややテラス状の地形があり、その地形周辺に住居跡ないしは遺物包含層が存在すると考えられる。

平成6年度は、北条町曲字小山ヶ谷地区と宮ノ前地区を中心に合計53本のトレンチを設定（挿図9～12、P. 19～22）し、遺跡の有無を確認した。

その結果、T1・T2からは遺物が検出されたが、特に遺構もなく細片であった。T3～T12は、果樹園の中に設定したが、すでに個人造成が行われており地山面まで検出し、攪乱層、盛土を確認し遺物を取り上げた。T13、T14からは、遺物、遺構とも検出されており、古墳時代を中心にした土師器、須恵器及び堅穴住居跡が検出された。T15～T19からは、何も検出されなかった。T20からは、古墳時代の土師器及び堅穴住居跡が検出された。T21、T22、T23の付近は以前の踏査により曲55号墳が確認されており、その周溝と思われる落ち込みと土師器片を検出した。T24～T50からは、何も検出されなかった。T51では土器片が検出されたが、いずれも細片であり遺構は検出されなかった。T52からは、何も検出されなかった。T53は、南隣に曲228号墳が確認されており、その範囲を確認しようとしたが、工事範囲には遺物、遺構とも検出されなかった。

遺物、遺構とも検出されたT13、T14から南東方向に伸びる谷があり清水も流れており、この付近に古墳時代の生活空間が存在すると推定できるが、範囲は不明である。また、T20の東側丘陵上には古墳が存在しており、T20より南側の果樹園付近にも一つの生活空間が存在すると推定できるが、これも範囲は限定できない。今回の試掘は、道路用地なので広範囲の反面、部分的な広がりがかめられない面もあり今後の発掘調査が望まれる。

版 图



岡地区 遠景 (南から)



岡地区 T16 (北から)



割木谷地区 遠景 (南から)



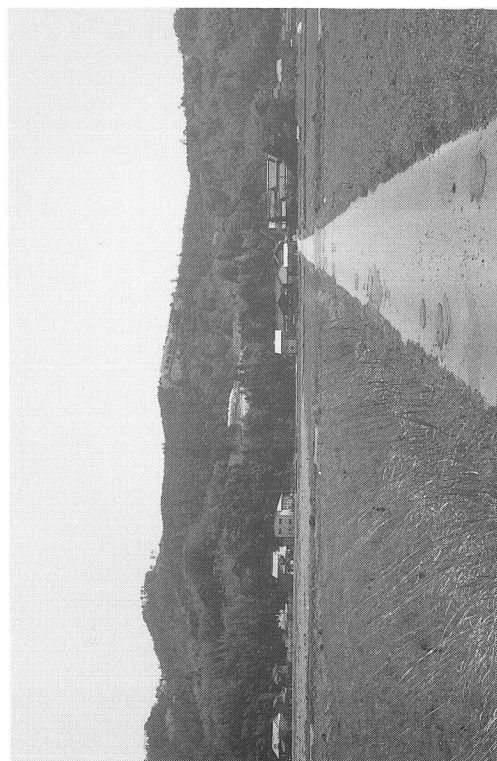
割木谷地区 T8 (南西から)



曲地区 T13、T14 付近遠景 (南東から)



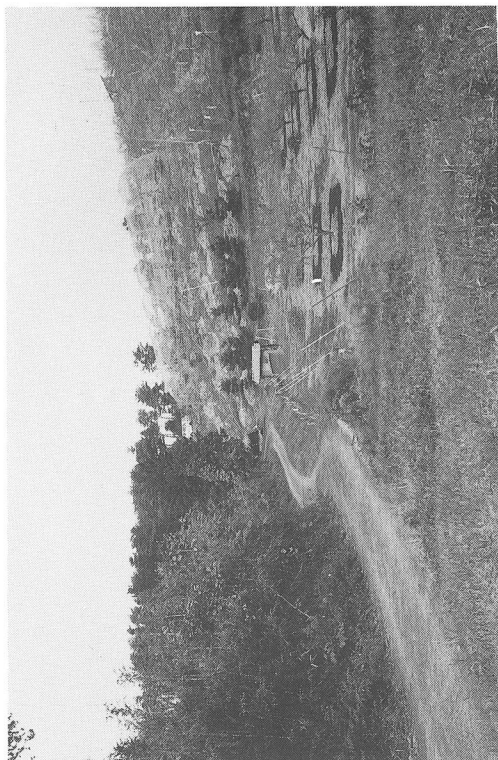
曲地区 T14 (北から)



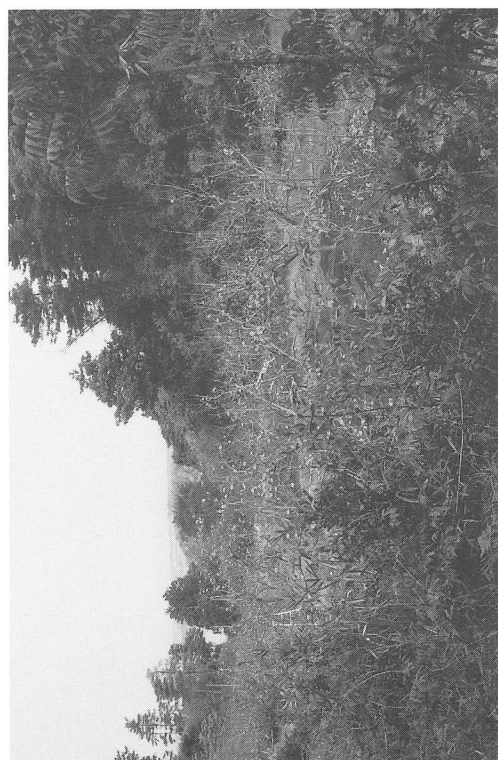
曲地区 蛸ヶ家山 遠景 (北から)



曲地区 T13 (北から)



曲地区 T22 付近近景 (南から)



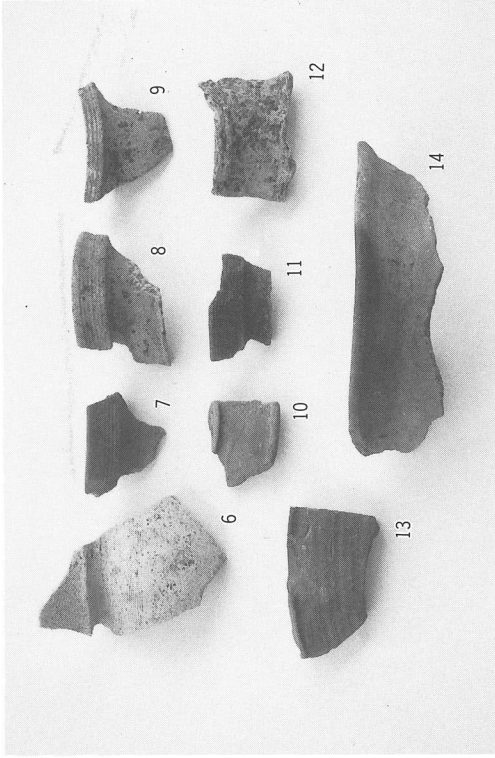
曲地区 T20 付近近景 (南から)



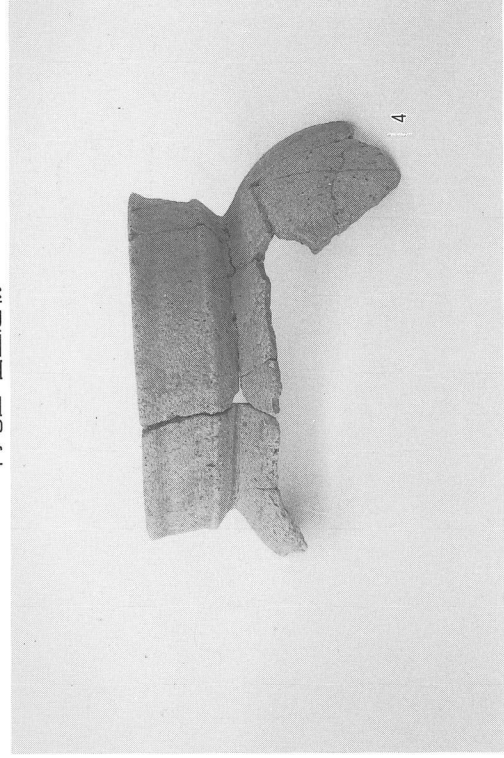
曲地区 T22 (東から)



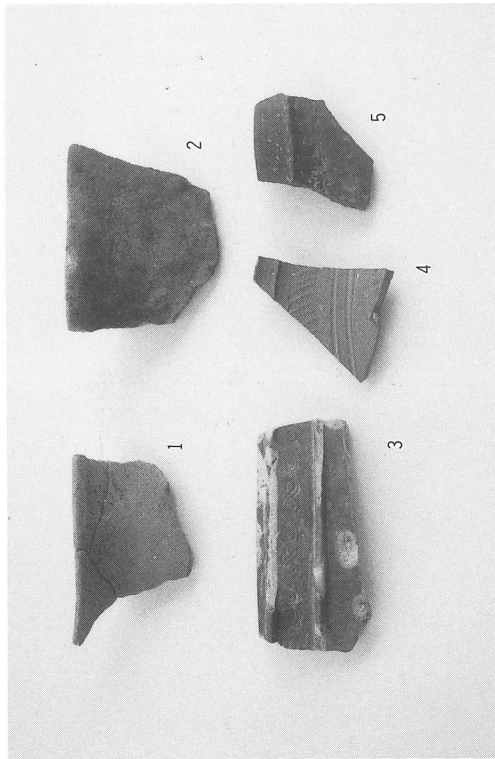
曲地区 T20 (東から)



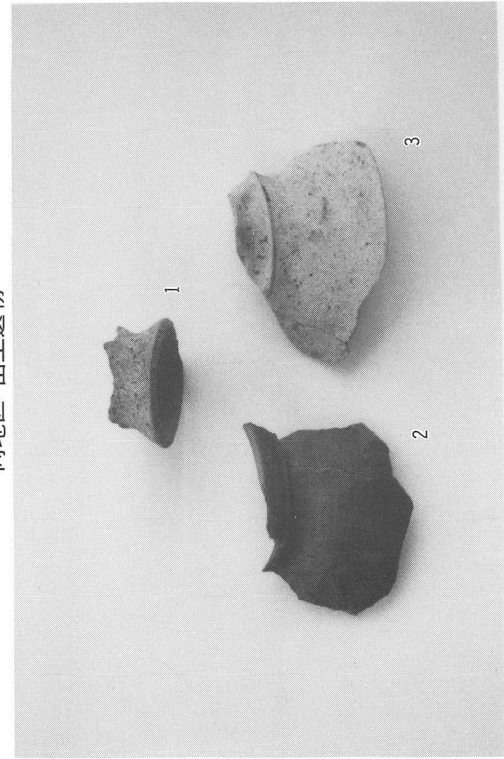
岡地区 出土遺物



曲地区 出土遺物

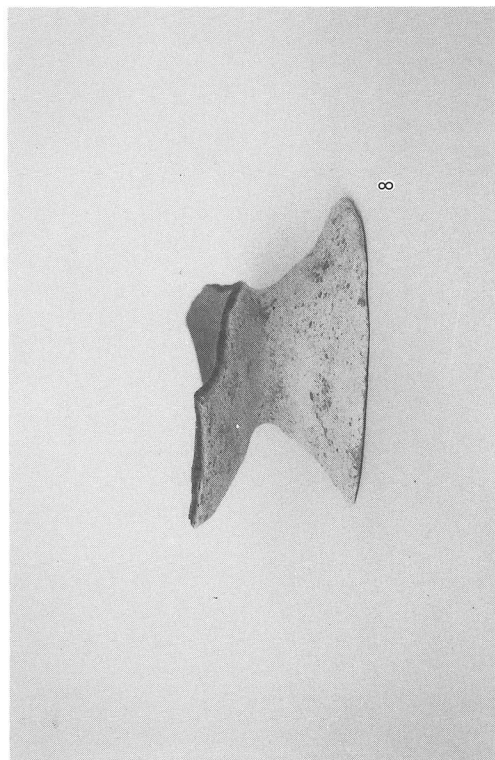
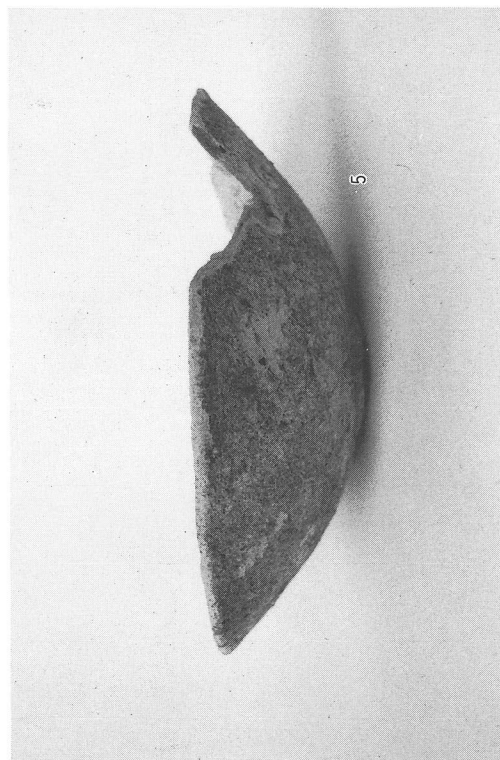
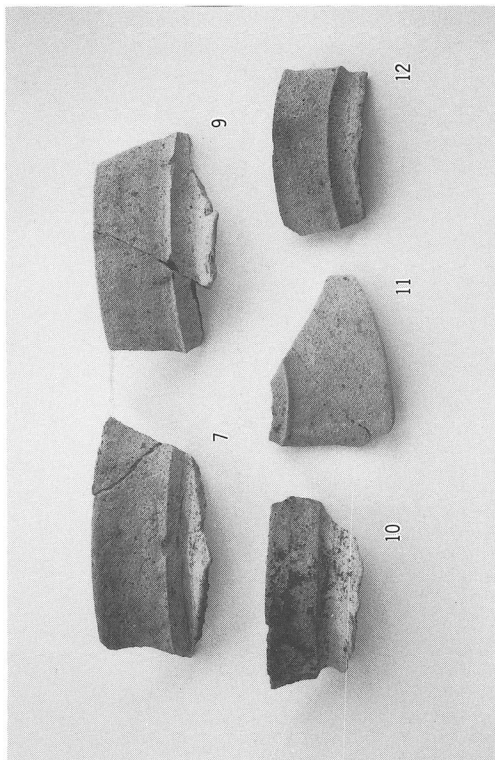
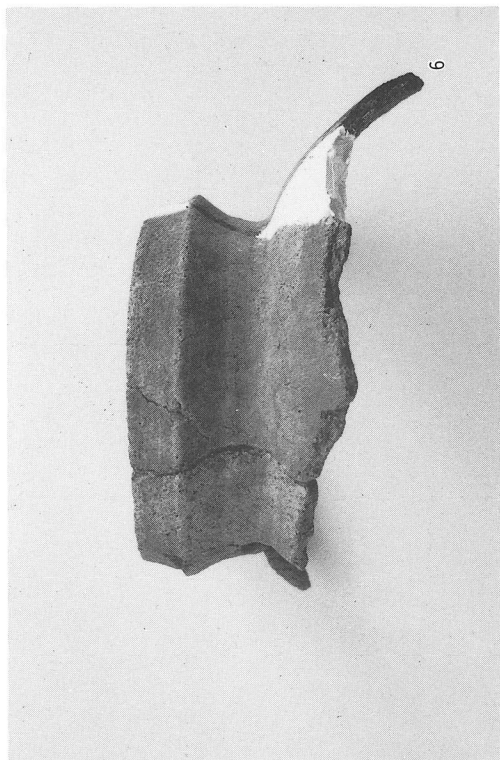


岡地区 出土遺物



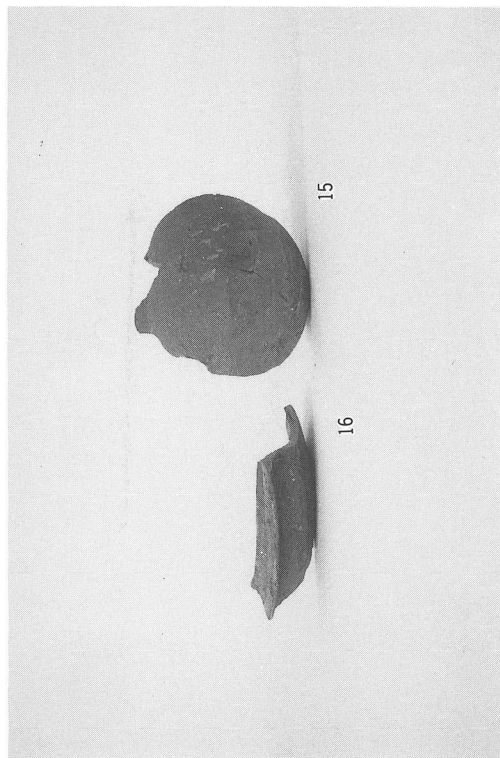
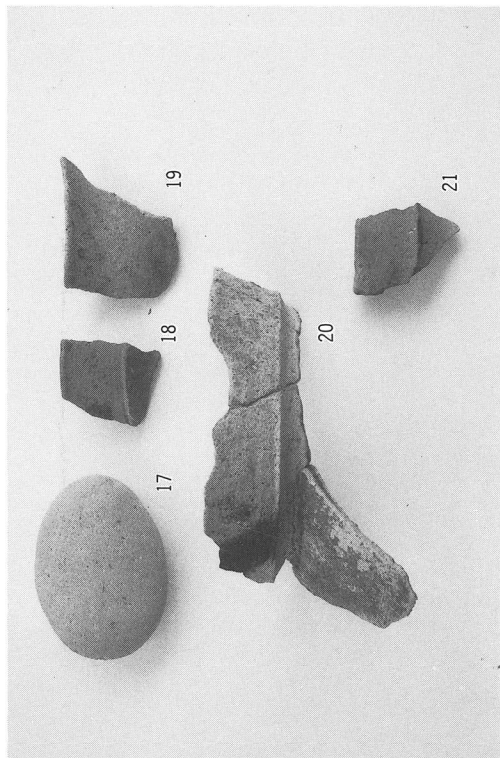
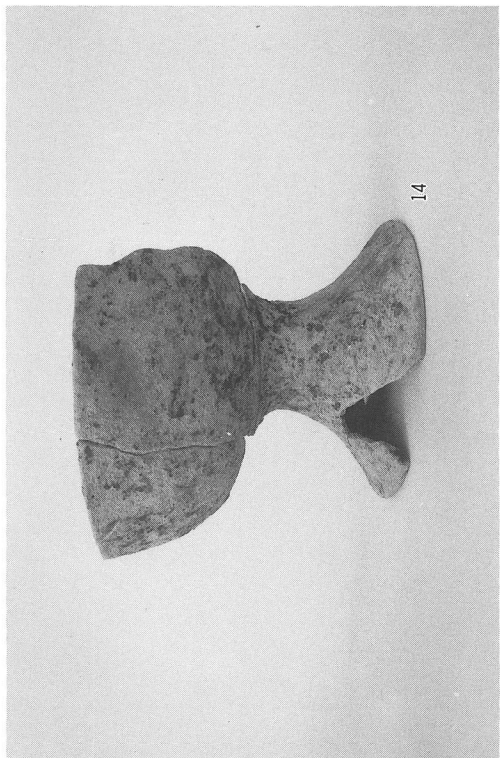
曲地区 出土遺物

图版 5



曲地区出土遺物

图版 6



曲地区 出土遺物

1995（平成7）年3月印刷
1995（平成7）年3月発行

北条町埋蔵文化財報告書16

町内遺跡発掘調査報告書第4集

編集 鳥取県東伯郡北条町土下112
発行 北条町教育委員会

印刷 鳥取県東伯郡羽合町長瀬818-1
製本 勝美印刷株式会社鳥取支店